

# 研究年報 2023

*Annual Report of Research 2023*



慶應義塾大学 看護医療学部

*Keio University Faculty of Nursing and Medical Care*

巻頭言.....	1
----------	---

看護医療学部教員の2023年度研究活動報告 (領域別・五十音順)

人間・社会科学領域

杉本 なおみ.....	2
パティ アーロン.....	4
増田 真也.....	5
宮川 祥子.....	6

看護科学領域・統合領域

秋元 直子.....	8
新幡 智子.....	9
石川 志麻.....	11
大坂 和可子.....	13
小澤 典子.....	15
小沢 浩美.....	17
金澤 悠喜.....	18
木田 千景.....	20
小池 智子.....	21
斉藤 忍.....	23
杉本 美希.....	24
鈴木 美穂.....	25
添田 英津子.....	26
田口 敦子.....	28
武田 祐子.....	30
田村 紀子.....	31
辻 恵子.....	32
富崎 悦子.....	33
永田 智子.....	34
野末 聖香.....	36
朴 順禮.....	37
平岩 千明.....	38
平野 優子.....	40
深堀 浩樹.....	41
福井 里佳.....	43
福田 紀子.....	44
藤井 千枝子.....	45
藤島 麻美.....	46
藤屋 リカ.....	47
細坂 泰子.....	48

真志田 祐理子 .....	49
松崎 愛 .....	51
矢ヶ崎 香 .....	52
山本 なつ紀 .....	53

### 健康科学領域

新井 康通 .....	54
杉山 大典 .....	56
堀口 崇 .....	58
山内 慶太 .....	60

## 巻頭言

看護医療学部長 野末聖香

慶應義塾では、総合大学としての強みを生かし、さまざまな分野で創造的な研究がすすめられています。看護医療学部においても、重要でユニークな研究が展開されています。昨年度から学部教員が行う研究をまとめた研究年報を発行しておりますが、今年度からはこれを公開することにいたしました。学部教員が行う研究活動の独自性や幅広さ、成果をより多くの方々に知っていただきたいと思ひます。

研究年報を学内外に発信することで、教員同士研究成果を共有して知の交流を図り、研究マインドを刺激し合いたいと思ひますし、学内外の研究者との連携や共同研究の発展につなげたいと思ひます。また学生が教員の研究をより詳しく知ること、プロジェクト研究が推進されることも期待します。

研究年報の作成にご尽力いただいた研究推進委員会の皆様、研究をご報告いただいた学部教員の皆様に感謝申し上げます。

分野：自然言語	職位：教授	氏名：杉本 なおみ
<b>研究テーマ：</b> 1. 医療コミュニケーション（特に在宅医・病院医間、研修医・指導医間、医療チーム内など、医療現場における職種間連携・協働上の課題のコミュニケーション学による解決） 2. 社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築		
<b>キーワード：</b> 医療コミュニケーション、コミュニケーション教育、職種間連携		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 「在宅移行期にある多疾患併存状態の高齢者に関し在宅医療機関宛診療情報提供書（以下「診情書」）を作成する病院医が在宅医に提供すべき情報」の同定という目的の達成に向け、2種類の調査を実施した。まず、2022年度に着手した「在宅療養後方支援病院に勤務する医師に提示し病院医の立場から意見を求めるインタビュー調査」に関し、予定残数2名に対する面接を実施した。またこの結果を踏まえ、「在宅移行期複数疾患併存状態高齢患者の診療情報提供に関する病院医・在宅医対象調査」を、病院医34名・在宅医32名を対象に実施した。この予備調査においては、在宅移行期にある多疾患併存状態の高齢者に関し在宅療養後方支援病院から在宅医療機関に提供されるべき情報の種類に関して、職種別の有意差は見られなかったことから、これまでの一連の研究により得られた知見は病院医・在宅医共に一定の合意が得られる内容であることが分かった。 2. 2023年10月1日より着手した社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築に関する研究（SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム～社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築「サービス・モビリティと多形態コミュニティの繋がりによる孤立・孤独予防モデル構築プロジェクト(AmPlated)」)においては、2023年10月に研究協力機関である大磯町役場の訪問、2023年11月28日に国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）主催令和5年度プログラム全体会議への参加、2023年12月に研究班内勉強会での発表、2024年3月に「たむらたけしこころの診療所」の訪問（引きこもり問題や家族療法の第一人者である思春期・家族精神科医田村毅氏より研究を進める上での理論的枠組みや介入手法に関する助言を得た）と、2024年度以降の社会実装に向け順調に準備を進めた。		

**研究成果・業績（論文・発表等）：**

**【著書】**

杉本なおみ. 「医療専門職養成課程モデル・コア・カリキュラムに見る「コミュニケーション」の捉え方」. 宮代廉丈, 山本薫, 編. 言語文化とコミュニケーション. 慶應義塾大学出版会, 東京, 2023: 257-262.

**【発表】**

・杉本なおみ・大西弘高. 「複数疾患を有する在宅移行期高齢者に関し在宅療養後方支援病院から提供された診療情報提供書に不備の見られた項目とその対応・要望：在宅医アンケート調査より（第一報）」第5回日本在宅医療連合学会大会. 朱鷺メッセ：新潟県新潟市. 2023年6月24日.

・Sugimoto, N., Sakai, I., & Onishi, H. Development and assessment of an online continuing interprofessional education course as an alternative to group-based onsite training programs for doctors and nurses. All Together Better Health: The 11<sup>th</sup> International Conference on Interprofessional Practice and Education. LII Building, Qatar University: Doha, Qatar. November 7, 2023.

**【講演】**

・杉本なおみ. 「医療コミュニケーションとチーム連携」第20回山陰内視鏡外科研究会. 松江テルサ：島根県松江市. 2023年7月1日.

杉本なおみ. 「医療のためのコミュニケーション」全国労災病院臨床研修指導医講習会. 独立行政法人労働者健康福祉機構総合研修センター：神奈川県川崎市（第30回 2023年6月30日；第31回 2024年1月26日）.

・杉本なおみ. 「医薬品安全とコミュニケーション」日本医療安全推進学会設立記念大会シンポジウム「医薬品安全活動の現状と新しい取り組み」. 東京大学医学部2号館：東京都文京区. 2023年9月17日.

・杉本なおみ. 「利用者や家族とのコミュニケーションでお困りごとはありませんか？」公益社団法人神奈川県看護協会令和5（2023）年度訪問看護ステーション教育支援事業. 藤沢商工会議所ミナパーク：神奈川県藤沢市. 2023年10月14日.

・杉本なおみ. 「医療面接における研修医指導」特定非営利活動法人VHJ機構第25回臨床研修指導医養成講座. 手稲溪仁会病院：北海道札幌市. 2023年11月12日.

・杉本なおみ. 「医療現場でのコミュニケーション～体験参加型で学ぶ～」公益社団法人秋田県看護協会臨海支部第2回研修会第53期秋田県連看護・リハビリ技術者合同交流集会. フォーラム秋田：秋田県秋田市. 2023年11月25日.

・杉本なおみ. 「コミュニケーション研究における理論の役割」SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）サービス・モビリティと多形態コミュニティの繋がりによる孤立・孤独予防モデル構築プロジェクト(AmPlatea). 慶應義塾大学ε館：神奈川県藤沢市. 2023年12月15日.

分野：自然言語	職位：教授	氏名：バティ アーロン
<b>研究テーマ：</b> 英語の接辞に関する L2 学習者の知識を理解するための用法に基づくアプローチ		
<b>キーワード：</b> 応用言語学、言語試験、第二言語語彙、多層ラッシュモデル		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> データ収集中		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> Batty, A. O., & Haug, T. (2023, June 8). What is “correct?”: Challenges in rating minority signed languages. Language Testing Research Colloquium 2023, NYC, USA.		

分野：ヒューマンケアリング	職位：教授	氏名：増田 真也
<b>研究テーマ：</b> 測定精度を高めるための調査回答行動の解明		
<b>キーワード：</b> ウェブ調査、回答の質、調査実験		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 2023年度は、これまでに行った研究をまとめることに注力した。この経過から、次の研究につながる仮説がいくつか生まれたことから、来年度に実施する調査・実験の準備を進めた。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> 増田真也・広田すみれ・坂上貴之編著（2023）. 心理学が描くリスクの世界 Advanced — 行動的意思決定の展開（慶應義塾大学出版会） 増田真也・澁谷泰秀・村上史朗・吉村治正（2023）. 直接質問法と Elaborate Item Count 法の比較—指示項目と回答の一貫性による不注意回答を除外しての検討 日本行動計量学会第 51 回大会（青山学院大学，2023 年 8 月 30 日，ポスター発表） 増田真也・澁谷泰秀・村上史朗・吉村治正（2023）. 同性婚の賛否の回答における社会的望ましさの影響—直接質問と Item count 法の比較 日本心理学会第 87 回大会（神戸国際会議場・神戸国際展示場，2023 年 9 月 17 日，ポスター発表） 村上史朗・澁谷泰秀・増田真也・吉村治正（2023）. 日本語版道徳基盤尺度得点と政治的態度の関連 日本グループ・ダイナミックス学会第 69 回大会（高知工科大学，2023 年 9 月 24 日，ポスター発表） 増田真也（2023）. したいけどできない—研究上の制約が研究知見に与える影響 日本心理学会第 87 回大会（神戸国際会議場・神戸国際展示場，2023 年 9 月 17 日，公募シンポジウム指定討論） 鎌倉やよい・丹野義彦・仲上豪二郎・増田真也・池田真理・丹野義彦・石井拓・藤巻峻渡邊直美（2023）. 固体内比較によるケアエビデンスの創出：シングルケースデザインの挑戦 日本看護科学学会第 43 回学術集会（海峡メッセ下関，2023 年 12 月 10 日，日本心理学会・日本看護科学学会共同シンポジウム，座長） 増田真也（2023）. 不注意回答の影響と検出   日本教育心理学会第 65 回大会（オンデマンド、学会企画チュートリアル・セミナー 調査への回答の偏りを理解する・検出する・調整する，講師）		

<b>分野：</b>	<b>職位：</b> 准教授	<b>氏名：</b> 宮川 祥子
<b>研究テーマ：</b> 災害時の行政・民間支援の情報共有と連携に関する研究 看護学と理工学の融合によるケアのものづくりに関する研究 公衆衛生看護分野での ICT の活用に関する研究		
<b>キーワード：</b> 看護・公衆衛生・防災・ICT・理工学・情報学		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 排泄ケアシミュレータの開発：看護学とロボティクスの融合研究として、排泄シミュレータの開発を行い、看護分野と理工学分野の融合におけるケアのものづくりの方法論について検討した。  行政保健師の ICT 活用に関する研究：行政保健師の ICT 活用の実態把握のため、全国の保健所への悉皆調査を行った。また、保健師業務への GIS 導入を検討している自治体への聞き取り調査を行った。  災害時の保健医療福祉分野の情報マネジメントに関する研究：災害時の保健医療福祉分野での情報マネジメントの知見を持つ専門家へのインタビュー調査を行い、保健医療福祉調整本部を支援する情報システムが持つべき要件を抽出した。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> 宮川祥子，吉田直美，田口敦子，健康なまちづくりに GIS（地理情報システム）を役立てるー福岡県古賀市の事例紹介とディスカッション，第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会，2024/1/6，福岡県北九州市。 宮川祥子他，慶應義塾大学看護医療学部での看護教育 DX の取り組み，第 11 回看護理工学会学術集会，2023/6/30，兵庫県神戸市。 宮川祥子他，直腸 3D モデルを用いた摘便シミュレータのための 動き制御パラメータの抽出，第 11 回看護理工学会学術集会，2023/6/30，兵庫県神戸市。 吉岡純希，宮川祥子他，フェイシャルリグ入り 3D モデルを活用した 口腔粘膜投与練習モデルの開発，第 11 回看護理工学会学術集会，2023/6/30，兵庫県神戸市。 Shoko Miyagawa, et al., What To Do When The Requirements Are Unknown? - Development of a Simulator for Excretory Care, Human Systems Engineering and Design (IHSED 2023): Future Trends and Applications, 2023. Shoko Miyagawa, et al., TEKIBEN --- DIGITAL DISIMPACTION AT HOME CARE IN JAPAN, Innovation in Aging, Volume 7, Issue Supplement_1, December 2023, Page 1128, <a href="https://doi.org/10.1093/geroni/igad104.3622">https://doi.org/10.1093/geroni/igad104.3622</a> , Dec. 2023.		

吉田直美, 内裕治, 近藤翼, 宮川祥子, 【保健師活動における ICT 化の推進】介護予防を促進するための GIS 活用 古賀市の DX 推進における保健師の視点と展望, 保健師ジャーナル, Vol. 79, Number 5, pp. 382-390, 医学書院, 2023.

宮川祥子, 情報活用. 公衆衛生, vol.87 no.10, 1042-1048, 2023.

杉山大典, 宮川祥子, 赤塚永貴, 大澤まどか, 田口敦子, 保健師活動における ICT 活用及びデジタル化の実態把握に向けた全国調査: 調査項目の検討及び結果 (速報), 第 8 回 日本臨床知識学会学術集会, 2023/12.

分野：	職位：助教	氏名：秋元 直子
<b>研究テーマ：</b> I.日本の看護師の'missed nursing care'の認識に関する質的研究 II.看護学におけるデータベースの構築・利活用に関する研究		
<b>キーワード：</b> 看護倫理学、看護教育、missed nursing care、quality of health care、EBP		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> I. 日本の看護師の'missed nursing care'の認識に関する質的研究 'missed nursing care'に関する文献調査を行い研究テーマ、研究計画の検討を行った。 2024年度の研究開始に向けて2024年度学事振興資金の申請準備を行った。  II. 看護学におけるデータベースの利活用に関する研究 看護学におけるデータベース構築・データベース利活用を促進するための看護系学会を対象とした調査研究にプロジェクトメンバーとして参画し調査票の開発を行った。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> なし		

分野：慢性期・終末期看護学	職位：専任講師	氏名：新幡 智子
<b>研究テーマ：</b> 1. がんサバイバーのストレングスを活用した支援に関する研究 2. がん薬物療法を受ける高齢者のフレイル予防：縦断研究によるケアモデル開発（基盤研究B） 3. 訪問看護師を対象とした在宅看取り教育プログラムの開発・評価に関する研究 4. 緩和ケアに携わる看護師の共感満足と関連因子の探索に関する研究		
<b>キーワード：</b> がんサバイバー・ストレングス・緩和ケア・エンドオブライフケア		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. がん看護に関連した専門看護師や認定看護師を対象として、がんサバイバーのストレングスを活用した支援に対する看護師の認識を明らかにすることを目的に、半構造化面接によりデータ収集を行い、データ分析に取り組んだ。 2. がん薬物療法を受ける消化器がん高齢者を対象として、症状クラスター・コーピング・QOLの影響要因を明らかにする縦断研究に取り組み、研究代表者とともに、質問紙調査によるデータ収集を行い、データ分析に取り組んだ。 3. 訪問看護師を対象とした在宅看取り教育プログラムや指導者養成プログラムの開発および有効性を検証することを目的としたプロジェクトに参画し、プログラム内容の検討や学会発表の準備、論文作成に取り組んだ。 4. 緩和ケアに携わる看護師を対象として、一般病棟、緩和ケア病棟、訪問看護における共感満足の比較や関連因子を探索することを目的とした横断研究に参画し、学会発表の準備や論文作成に取り組んだ。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> <b>【論文】</b> ・ Higashibata T, Hamano J, Nagaoka H, Sasahara T, Fukumori T, <u>Arahata T</u> , Kazama I, Maeno T, Kizawa Y. Work environmental factors associated with compassion satisfaction and end-of-life care quality among nurses in general wards, palliative care units, and home care settings: A cross-sectional survey. International Journal of Nursing Studies 2023; 143: 104521.  <b>【学会発表】</b> ・ 東端孝博, 浜野淳, 長岡広香, 笹原朋代, 福森崇貴, <u>新幡智子</u> , 風間郁子, 前野哲博, 木澤義之. 一般病棟、緩和ケア病棟、訪問看護における看護師の共感満足の比較と関連因子の探索. 第28回日本緩和医療学会学術大会 2023/6（兵庫）.		

- Higashibata T, Hamano J, Nagaoka H, Sasahara T, Fukumori T, Arahata T, Kazama I, Maeno T, Kizawa Y. Impact of Collegial Nurse–Physician Relationships on Nurses’ Professional Quality of Life: An Online Cross-sectional Study. 15th Asia Pacific Hospice Palliative Care Conference 2023 2023/10 (韓国)
- 濱谷雅子, 平原優美, 小沼絵理, 沼田華子, 野口麻衣子, 菱田一恵, 岡本有子, 竹森志穂, 新幡智子, 栗田佳代子, 山本則子. 訪問看護師向け在宅看取り教育プログラム (初任者) の無作為化比較試験による評価. 第 43 回日本看護科学学会学術集会 2023/12 (山口) 【最優秀演題口頭発表賞 受賞】

分野：地域看護学分野	職位：専任講師	氏名：石川 志麻
<b>研究テーマ：</b> 1. 医療的ケア児と家族を支える効果的な多機関多職種連携 2. 社会的孤立予防に資する CBPR 3. ICT 活用による保健師活動評価手法の開発及び PDCA サイクル推進に資する研究		
<b>キーワード：</b> 社会的孤立予防、CBPR、地域包括ケアシステム、医療的ケア児、多職種連携		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. <u>医療的ケア児と家族を支える効果的な多職種連携指標作成</u> ：自身の先行研究結果（支援者 9 人（医師、行政保健師、看護師等）・当事者へのインタビュー調査にて、医療的ケア児と家族の生活の拡大につながった多職種に関する語りのデータと、文献検討から指標案を作成した）を精練するために、さらに 7 人（医療的ケア児等コーディネーター、専門看護師、養護教諭、保育士等）に追加調査を行って指標案を修正した。作成した指標が当事者の生活を広げる多職種支援を推進するものであるか検証のため、当事者－支援者を対にして対象とした研究を行っている。 2. <u>社会的孤立予防に資する CBPR</u> ：2023 年 8 月より 2 団地をフィールドに CBPR を実施している。フィールドは共に高齢化率が約 50%、自治会加入率も 50%弱、建設後約 60 年経過と類似している。選定にあたり、行政職員や団地運営会社などステークホルダーと丁寧に協議するプロセスを重視した。研究 1 年目の 2023 年度は、2 団地それぞれの健康課題を地域住民や関係者と共有し、各地区性に合わせた解決策の明確化を行った。1 つの団地では、地域の関係者による会議体があり、そこでは高齢者の生活に係る地域課題への取り組みが重視され、子育て世代に係る地域課題の検討が手薄になっていた。2023 年度の研究的取り組みにより、子育て世代に係る課題も地域の会議体で協議する体制へと変化した。もう一方の団地では、CAP モデルを用いた地区診断を行った。診断結果をフィードバックしたことにより、人々の交流を目的とした社会資源整備に注力してきたが、交流が苦手な住民の居場所づくりを行ってこなかったことに気づき、新たな居場所づくりの必要性を共有できた。2024 年度は解決策を具体的な活動計画に落とし込み、実施、評価を行う。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> <b>【学会発表】</b> ・石川志麻、藤田美江. 医療的ケア児・家族支援における多職種から見た行政保健師の支援とその役割. 第 12 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2023 Jan 6-7; 北九州. <b>【書籍】</b> ・標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術 第 5 版 pp. 171-177 (5 章家庭訪問による支援の展開 B 家庭訪問による支援の実際 事例 4：発達に不安のある子どもへの訪問)		

・標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 第 5 版 pp. 152-172 (5 章障害者 (児) 保健医療福祉活動)

【受賞】

神奈川県公衆衛生協会研究奨励表彰 (杉浦賞)

関根恭子, 井上右梨, 神之浦香穂, 舟久保麻理子, 片山公美, 的場幸子, 一色葉子, 阿南弥生子, 宮川祥子, 石川志麻. 神奈川県公衆衛生学会誌. 68 36-37, 2022.

【社会活動】

・茅ヶ崎市難病対策地域協議会 会長

・未来先導基金 2023 年度 サステイナブルキャンパスプログラム

健康と地域プロジェクトの一環として、エコキャップ運動・キャップが繋げる D&I 活動を主催した。SFC 近隣の福祉施設のうち、ペットボトルキャップのリサイクル前分別処理を行っている施設利用者・職員、SFC3 学部の学生と共にキャンパス内のペットボトルキャップ回収を行っている。共にキャップ回収を行うことで、障がいのある方と学生・教職員の相互理解を促進する。また、回収作業を通じてキャンパス内のごみ分別への動機づけを高める。2024 年度も継続実施する。

分野：慢性期・終末期看護学	職位：准教授	氏名：大坂 和可子
<b>研究テーマ：</b> デイシジョンエイドの開発、評価、普及、実装に関する研究		
<b>キーワード：</b> シェアード・デイシジョンメイキング、デイシジョンエイド、がん、意思決定支援、患者の主体性		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> デイシジョンエイドの開発、評価、普及、実装に関する研究として取り組む3つのテーマについての研究活動概要は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デイシジョンエイドの開発・評価に関する研究             <p>乳房再建を検討する乳がん患者向けのデイシジョンエイドを活用したシェアード・デイシジョンメイキングの効果検証研究に参加し、主に研究デザインの検討、介入内容の検討、介入群医師向けトレーニングコースの検討を担当している。本研究のデザインは多施設共同のクラスターランダム化比較試験である。</p> <p>2023年度は、研究代表者と共に研究倫理審査対応および、介入群施設医師向けのシェアード・デイシジョンメイキングのトレーニングコース作成と実施を担当した。介入群施設医師向けのシェアード・デイシジョンメイキングトレーニングコースは、オンデマンド学習(講義動画の視聴、個人ワーク、知識確認テスト)と、オンラインリアルタイム研修で構成した。介入群施設のうち、施設の承認が得られた一部の医師に対しトレーニングコースを提供した。</p> </li> <li>2. デイシジョンエイドを系統的に開発し活用できる医療者育成プログラムの開発に関する研究             <p>2022年度に実施した教育プログラムの Feasibility study の分析を進めた。プログラムを受講し、価値があると思った点、および今後の改善点についてアンケート自由記載で収集したデータを質的に分析した。結果を踏まえ、インストラクショナルデザインに基づき、構成、内容、提供方法を再検討した。</p> </li> <li>3. シェアード・デイシジョンメイキングおよびデイシジョンエイドの活用に関する阻害要因と促進要因に関する研究             <p>2023年度は、がんの治療法に関するシェアード・デイシジョンメイキングおよびデイシジョンエイドの活用を促進する上で、何が阻害要因、促進要因となっているか明らかにすることを目的とした調査の実施に向けて検討を行った。</p> </li> </ol>		

## 研究成果・業績（論文・発表等）：

### 論文

- ・ 大坂 和可子, 青木 裕見, 納富 理絵, 遠藤 亜貴子, 中野 美穂, 有森 直子. 産科医療に従事する多職種チームメンバーを対象としたシェアード・ディシジョンメイキング教育プログラムの開発プロセスと受容性の検討. 日本ヘルスコミュニケーション学会誌, 2023; 14(2): 27-38.
- ・ Yuta Okazawa, Hayato Kizaki, Nobuyuki Suzuki, Wakako Osaka, Satoko Hori. Influence of participation in a medical-themed Science Café on patient activation. Patient Preference Adherence, 2023; 17: 3093-3106.

### 講演等

- ・ 大坂和可子. 患者のヘルスリテラシーを考慮したシェアード・ディシジョンメイキングーディシジョンエイド活用の有用性ー（メディカルスタッフセッション「意思決定支援を見直す ～ヘルスリテラシーの観点から～）（講演）. 第31回日本乳癌学会学術総会, 2023年6月30日（横浜）.
- ・ 大坂和可子. ガイドライン委員会企画「明日からの実践に活かす Shared decision making の基本」（講演）. 第15回日本創傷外科学会総会・学術集会, 2023年7月14日（東京）.

### 学会発表

- ・ 鈴木 美慧, 大坂 和可子, 大川 恵, 金井 久子, 喜多 久美子, 竹井 淳子, 林 直樹, 吉田 敦, 山中 美智子, 山内 英子. HBOC リスク低減乳房切除術選択時の説明内容、Shared Decision Making と意思決定の葛藤および後悔の関連. 第31回日本乳癌学会総会, 2023年6月30日（横浜）.
- ・ 青木裕見, 大坂和可子, 青木頼子, 藤田美保, 有森直子, 中山和弘. 患者と医療者が意思決定プロセスを共有するための方略ー価値観を明確にするディシジョンエイドの活用ー（交流集会）. 第43回日本看護科学学会学術集会, 2023年12月9日-10日（下関）.

分野：小児看護学	職位：講師	氏名：小澤 典子
<b>研究テーマ：</b> 1. 小児慢性疾患患者の成人移行期支援に関する研究 2. 学校教員対象のてんかん発作の対応(ブコラム口腔用液投与を含む)に関する研修プログラムの検討 3. Covid-19 流行下における大学生の精神的健康に関する研究 4. NICUにおける子どもや家族への支援に関する研究		
<b>キーワード：</b> 小児看護、家族看護、成人移行期支援、小児慢性疾患、学校看護		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 2023 年度は、成人移行期にある子どもの心理社会的状況を測定する尺度開発に携わった。今後は、小児慢性疾患患者の成人期移行期支援について、子どもと保護者との関係性や、ヘルスリテラシーに着目しながら行った質問紙調査について分析をすすめ、結果をまとめていく予定である。 2. 学校教員に対するてんかん発作の対応に関して、ブコラム口腔溶液の練習用モデルの開発や、練習用プログラムの開発に取り組んでいる。2023 年度は養護教諭対象の研修プログラムを開催した。今後はその結果をまとめた後、一般の教職員対象にもプログラムを実施し、その効果を検討していく予定である。 3. Covid-19 流行下での大学生の摂食障害傾向や、対人交流・抑うつ傾向などに関する研究に取り組んだ。今後はその成果をまとめていく予定である。 4. NICUにおける退院支援における家族支援や、END of Lifeにおける家族支援に関する研究に取り組んだ。今後はその結果をまとめていく予定である。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> 1. <b>Development of adolescent childhood cancer survivors' psychosocial issues scale.</b> Kyoko Hidaka, Takafumi Monma, Hiroko Fukushima, <u>Noriko Ozawa</u> , Naoko Iwata, Kazuki Terada, Takashi Fukushima, Fumi Takeda. <i>Pediatrics International</i> (Wiley) 65 (1) e15664, 2023 年 11 月 (論文発表)  2. <b>フェイシャルリグ入り 3D モデルを活用した口腔粘膜投与練習モデルの開発.</b> 吉岡純希, <u>小澤典子</u> , 宗皓, 富崎悦子, 添田英津子, 宮川祥子, 第 11 回看護理工学会学術集会, 2023 年 06 月 (ポスター発表) <b>ブコラム®の投与練習モデルとトレーニングプログラム-学校教職員に対する医療的ケア実践に向けた支援-</b> <u>小澤典子(出展団体代表者)</u> , 慶應義塾大学 SFC Open Research Forum 2023(展示).		

**3. COVID-19 感染拡大後の大学生における摂食障害傾向の関連要因。**

矢ヶ部 未奈、大関 愛美、小澤 典子、牟田 理恵子、山本 君子、菅谷 智一，第 43 回日本看護科学学会学術集会，2023 年 12 月，口頭発表。

**COVID-19 の流行による大学生の対人交流の変化と抑うつ傾向の関連**

大関愛美，矢ヶ部未奈，小澤典子，牟田理恵子，山本君子，菅谷 智一，第 17 回看護教育研究学会学術集会，2023 年 10 月，口頭発表。

**4. Development and Satisfaction Evaluation of an End-of-Life Family Support Nurse Education Program in a Neonatal Intensive Care Unit.**

Yumiko Saito, Rie Wakimizu, Noriko Ozawa, Saori Saito, The 43rd Annual Conference of Japan Academy of Nursing Science, 2023 年 12 月(ポスター発表).

分野：小児看護学	職位：助教	氏名：小沢 浩美
<b>研究テーマ：</b> 1. 保育所における医療的ケア児への支援に関する研究 2. グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）の方法論に関する研究		
<b>キーワード：</b> 医療的ケア児、保育所、看護師、保育者、グラウンデッド・セオリー・アプローチ		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 保育所における医療的ケア児への支援に関する研究 1) 医療的ケア児の保育に携わる保育者が抱く困難感に関する研究 学会誌への投稿を目標として活動し、論文が学会誌に掲載された。 2) 保育所における医療的ケア児への看護師による支援に関する研究 データの分析と学会誌への投稿準備を目標として活動した。現在までに収集したデータを分析し、論文の草稿を作成した。 3) 保育所における医療的ケア児への保育者による支援に関する研究 データの分析を目標として活動し、現在までに収集したデータの分析を進めた。 4) 医療的ケアのある重症心身障害児への保育に関する研究 医療的ケアのある重症心身障害児への保育を実践している保育者と共に、医療的ケアのある重症心身障害児への保育と多職種連携について調査した。その結果を第48回日本重症心身障害学会学術集会にて発表した。 2. グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）の方法論に関する研究 GTAに関する研鑽を積むことを目標として活動した。GTAに関心のある研究者とGTAを用いたデータ分析の検討を目的とする研究会を実施した。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> 論文 ・ 小沢 浩美(2023). 医療的ケア児の保育に携わる保育者が抱く困難感. 小児保健研究, 82 (4), 416-424. 学会発表 ・ 小沢 浩美・瀬戸 由喜子(2023). 重症心身障害児への保育における多職種連携 集団保育に携わる看護の視点から. 日本重症心身障害学会誌, 48(2), 340. (2023年10月26-27日、ポスター発表) ・ 瀬戸 由喜子・小沢 浩美(2023). 重症心身障害児への保育における多職種連携 障害児保育園ヘレン保育の視点から. 日本重症心身障害学会誌, 48(2), 340. (2023年10月26-27日、ポスター発表)		

分野：母性看護学／助産学	職位：専任講師	氏名：金澤 悠喜
<b>研究テーマ：</b> 周産期領域における母子への効果的なケアおよび支援方法の確立 周産期領域における助産師および助産師の業務改善を目指したデバイス開発		
<b>キーワード：</b> 助産学、ウィメンズヘルス看護学、看護理工学、新生児学		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 周産期領域の特に、分娩直後～産後期（新生児期）を中心に、助産師の業務改善、乳腺炎や乳がんの早期発見に対する助産師への教育、発達障害を抱えて育児をする母親への支援、子どもを持った夫婦関係の構築、出生直後の新生児への効果的なケアの確立などの研究を行っている。今年度に最終戦略まで到達した研究は無いが、少しずつ成果を上げ、臨床に還元できるように努力を重ねていく予定である。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> （発表） Hososaka, Y., Saito, Y., Ikeshita, T., <u>Kanazawa, Y.</u> , Tsuji, K. (2024) Why some people do not have children: Analysis of the World Values Survey in 17 Asian regions. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong). <u>Kanazawa, Y.</u> & Iwata, H. (2024). Mastitis-Causing Bacteria in Women During Pregnancy and Lactation: A Scoping Review Protocol. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong). <u>Kanazawa, Y.</u> , Katoh, A., Nakayama, K., Yoshida, M. & Isoyama, A. (2024). Women's Breastfeeding Experiences After Breast Cancer Treatment: Qualitative Systematic Review Protocol. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong). <u>金澤悠喜</u> , 柴山大賀. (2023). 配偶者またはパートナーからの暴力に対する公正感受性と発達障害, 育児における協働感, 役割葛藤の影響. 第 43 回日本看護科学学会学術集会（山口） <u>金澤悠喜</u> , 桑名健太, (2023). 助産師および産科医の分娩介助時の一連手技における実態とその手技の必要性の認識. 第 11 回看護理工学会学術集会（神戸） 石橋匠, 原航介, <u>金澤悠喜</u> , 桑名健太. (2023). 臍帯切断位置の血液排斥のための構造体を持つ臍帯クリップホルダの開発. 第 11 回看護理工学会学術集会（神戸） 桑名健太, 佐々木良一, 土井根礼音, <u>金澤悠喜</u> , 土肥健純. (2023). 分娩経過共有のための		

IoTシステムの提案とシステム構成要素の開発. 第11回看護理工学会学術集会(神戸)  
 原航介, 石橋匠, 金澤悠喜, 桑名健太. (2023). 臍帯のクランプ・切断を一括実現可能な臍帯切断デバイスの開発. 第11回看護理工学会学術集会(神戸)

塩見咲良, 鳥居万椰, 村上貴人, 寺澤 瑛利子, 壹岐聡恵, 平田珠梨, 落合陽一, 金澤悠喜. (2023). 妊婦体験ジャケット着用時の姿勢・歩容・腰部負担感の分析—ヒール高による比較—. 第11回看護理工学会学術集会(神戸)

永田友実, 金澤悠喜, 岡山久代. (2023). 精神疾患を抱えた妊産褥婦に対する多職種連携の連携体制の文献検討. 第7回日本産前産後ケア・子育て支援学会(東京)

高橋恵美, 金澤悠喜, 礪山あけみ. (2023). 助産師ブラッシュアップ研修事業の評価と開催方法の検討. 第42回茨城県母性衛生学会総会・学術集会(茨城)

(論文・著書)

金澤悠喜, 高橋美恵, 礪山あけみ. (2024). 茨城県助産師ブラッシュアップ研修事業の実践報告(第2弾). 茨城県母性衛生学会誌, 42.

永田友実, 岡山久代, 金澤悠喜. (2024). 精神疾患を抱えた妊産褥婦に対する多職種連携の連携体制の文献検討. 茨城県母性衛生学会誌, 42.

山崎真依, 川野亜津子, 金澤悠喜. (2023). 自閉症スペクトラムと類似した特性を持つ妊産褥婦に対する助産師の支援. 母性衛生, 64(1), 173-179.

大嶋恵奈, 金澤悠喜. (2023). 産後ケア事業の実態とその効果に関する文献検討. 茨城県母性衛生学会誌, 41, 1-7.

金澤悠喜. (2023). 第32回楽しく研究しながら, 看護学に新たな風を吹かせたい. 特集 集まる つながる 広がる 若手研究者のバトン. 看護研究, 56(6), 医学書院(東京), pp477-481.

荻原弘幸, 小西美樹, 金澤悠喜, 竹山美穂, 永井智子, 松本光寛. (2023). 北関東エリア, 特集若手研究者の活躍に向けて, 看護研究, 56(2), 医学書院(東京), pp124.

金澤悠喜, 菅谷智一, 山崎真依. (2023). 発達障害傾向の特性を持つ母親に関する育児や家事の現状と課題の明確化—発達障害傾向の母親への育児期における支援方法確立に向けて—. 研究助成論文集, 58, 公益財団法人 明治安田こころの健康財団(東京), pp11-14.

(社会貢献)

日本フォレンジック看護学会: 評議員、編集委員  
 看護理工学会: 評議員、次世代委員  
 日本看護科学学会: 南関東エリアコーディネーター  
 茨城県母性衛生学会: 幹事、編集委員  
 茨城県助産学会: 理事、勤務部会部会長、教育委員  
 日本助産師会: 代議員

2023年度 日本看護科学学会若手の会主催 第5回北関東エリア検討会 講師  
 『キャリア形成について語ろう、過去・現在・未来～大学教員編～』

分野：慢性期・終末期看護学	職位：助教	氏名：木田千景
<b>研究テーマ：</b> ・災害時における看護師への支援者支援やメンタルヘルスケアに関する研究		
<b>キーワード：</b> 災害看護、支援者支援、看護師、メンタルヘルス		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 研究テーマ：災害時における看護師への支援者支援やメンタルヘルスケアに関する研究 <b>◆2023年度の目標：</b> 上記研究テーマにおける研究を学会発表し、論文化を目指す。 <b>◆活動内容：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本災害看護学会の第25回年次大会において、口演発表を行った。</li> <li>・米日カウンスル TOMODACHI J&amp;J 災害看護研修プログラム 最終報告会に登壇し、アラムナイとしてのプログラムで得られた学びとそこから現在取り組んでいる研究について講演した。</li> </ul>		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第25回 日本災害看護学会 年次大会において、以下の口演発表を行った。</li> </ul> <p style="margin-left: 40px;">【O8-4】 新型コロナウイルス陽性患者対応を継続的に行った看護師に生じた思いの変化とそれに対し求められる支援</p>		

分野：看護マネジメント・医療政策	職位：准教授	氏名：小池 智子
<b>研究テーマ：</b> 1. ケース・メソッド教育を用いた看護管理者のマネジメント能力育成プログラム 2. 医療勤務環境改善に資する Nudge 開発・普及に関する研究 3. 高齢者のワクチン忌避・感染予防の行動変容の促進に関する研究		
<b>キーワード：</b> ケース・メソッド教育 ナッジ 医療安全 感染予防行動 ソーシャル・ネットワーク		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. <b>ケース・メソッド教育を用いた看護管理者のマネジメント能力育成プログラム開発</b> 変化が激しく複雑で将来の予測が困難な時代における看護管理者のマネジメント能力を高める教育プログラムを開発し実践・評価を行った。現在進行形の重要な管理課題について、関係者へのインタビューからケース教材（コマンドセンターを活用した病床決定促進支援と看護師の忙しさの可視化による新たな応援体制、救急処置対応チームの機能向上とセンター間連携など）を4ケース作成し、看護観師長を対象にケース・メソッド教育研修（6回/年）を実施しその効果を評価した。 2. <b>医療勤務環境改善に資する Nudge 開発・普及に関する研究</b> 行動経済学・行動科学等の行動インサイトの知見およびアフォーダンス理論を活用し、医療機関・介護施設の職場改善に資するナッジ設計ワークショップを開催し、職場のナッジ実践の支援および評価を行った。 3. <b>ワクチン忌避・感染予防行動の行動変容の促進に関する研究</b> ワクチン接種とソーシャル・キャピタルとの関連についてスコopingレビューを行い、住民を対象の感染予防に対する意識と行動を強化するワークショップの開発を行った。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> 【論文等】 1. Qi Kaixin, <u>Tomoko Koike</u> , Youko Yasuda, Satoko Tayama, Itsumi Wati(2023) The effects of rehospitalization rate on transitional care using information communication technology in patients with heart failure: a scoping review, International journal of nursing studies advances. 2. <u>小池智子</u> ：「ナッジ」でよりよい業務改善や看護をそっと後押し!(第4回) ナッジ設計：職場に「ナッジ」を上手に導入するために（解説）主任看護師 Style32 (3) :80-85, 2023. 3. <u>小池智子</u> 、 <u>小林理恵子</u> 、 <u>郡亜樹他</u> ：「ナッジ」でよりよい業務改善や看護をそっと後押し!(第5回) 看護業務のナッジ設計の実践事例 (1)（解説）主任看護師 Style33 (1) :78-84, 2023. 4. <u>小池智子</u> ：「ナッジ」でよりよい業務改善や看護をそっと後押し!(第6回) 看護業務のナッジ設計の実践事例 (2)（解説）主任看護師 Style33 (3) :78-84, 2023. 5. 小池智子：看護現場を「つくり」そして「動かす」, Nursing BUDSINESS 17(10) :867, 2023 6. 小池智子：ナッジで職場の「ゆとり」を生み出す, Nursing BUDSINESS 17(11) :963, 2023.		

7. 小池智子:職場の活力と創造を後押しするナッジ, Nursing BUSINESS17(12) :1059, 2023.
8. 竹林正樹、小池智子:行動変容を促すナッジを使ったアプローチ 医療現場で使えるナッジは?①、コミュニティケア 25(11):44-46. 2023.
9. 竹林正樹、小池智子:行動変容を促すナッジを使ったアプローチ 医療現場で使えるナッジは?②(解説)、コミュニティケア 25(12):29-31, 2023.
10. 小池智子:看護業務効率化がもたらす看護サービスの経済効果について考える、Nursing BUSINESS 2024(春期増刊):28-36.
11. 熊谷雅美、小池智子:「KKD」から「EBM」への変化のとき~看護師の労働生産性の向上を目指すために~, ナーシングビジネス 2024年([春季増刊]):38-49.

【学会発表】

1. 和地いつみ、小池智子:看護管理者の採用面接および人事評価面接における特定の対象群に対する印象の傾向、第27回日本看護管理学会学術集会(2023年8月 東京)
2. 和地いつみ、小池智子:病院の看護管理者のアンコンシャス・バイアスへの影響要因,第27回日本看護管理学会学術集会(2023年8月 東京)
3. 小池智子 加藤恵里子 内田智栄 宗廣妙子 岡本陽子 勝又徳子 田村紀子:看護管理能力を高めるケースメソッド教育プログラムの実施と評価,第27回日本看護管理学会学術集会(2023年8月 東京)

【講演等】(研究より得られた知見等の普及活動を中心に記載)

1. 「ナッジ理論を活用した医療安全の取り組み」岡山県岡山医療生活協同組合医療安全学習会(2023.07.19 online)
2. 「今日から活かせるナッジ理論 ~人材育成・人間関係・地域づくりに活かせる仕掛けづくり~」公益社団法人神奈川県看護協会保健師職能集会・講演会(2023.07.20 online)
3. 「看護現場を変える『ナッジ』の考え方~思わず行動を起こす仕組みづくり~」公益社団法人三重県看護協会研修(2023.08.21, 三重県津市)
4. 「看護現場での『ナッジ』活用~看護現場をより良くする仕掛けを増やす~」東京大学医学部附属病院看護部・看護師長研修会(2023.10.26, 東京)
5. 「より良い意思決定に向けたナッジの活用」公益社団法人大阪府看護協会研修(2023.10.29, 大阪)
6. 「看護現場での『ナッジ』活用」公益社団法人岩手県看護協会(2023.11.2, online)
7. 「健康でいきいき地域活動のススメ~瀬谷に元気があふれだす~」(基調講演)瀬谷区地域福祉保健計画シンポジウム(2023.11.25, 神奈川県横浜市)
8. 「ナッジで創る組織と人材育成」セコム医療フォーラム2024(2024.1.27, 東京)
9. 「ナッジ理論:医療現場での活用」公益財団法人東京都福祉保健財団幹部マネジメント(管理栄養士)研修(2024/2/22 online)
10. 「行動経済学「ナッジ理論」と健康づくりへの活用」新宿区自治フォーラム2024(2024.3.16 online)

分野：基礎看護学	職位：助教	氏名：齊藤 忍
<b>研究テーマ：</b> クリティカルケア領域における看護師の思考過程に関する研究		
<b>キーワード：</b> クリティカルケア 看護師 気づき テクノロジー 生活者		
<b>今年度の研究活動の概要：</b>  2023 年度目標：修士論文を修正し学会へ論文投稿を行う 活動内容：投稿論文を執筆中		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b>  特になし		

分野：慢性期・終末期看護学	職位：助教	氏名：杉本 美希
<b>研究テーマ：</b> 1. 非ホジキンリンパ腫患者のアンメットニーズと生活の質に関する研究 2. 地域在住高齢者の歩行動作と転倒に関する研究		
<b>キーワード：</b> がん看護、化学療法、悪性リンパ腫、生活の質		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 「非ホジキンリンパ腫患者のアンメットニーズと生活の質に関する研究」 再発・難治性の非ホジキンリンパ腫患者のアンメットニーズと健康関連の生活の質の特徴および関連を明らかにするため、外来通院中の患者を対象にデータ収集を行った。質問紙調査 50 名、インタビュー調査 20 名のデータについて、分析をすすめている。  2. 「地域在住高齢者の日常生活動作の非接触動作解析と転倒リスク要因の解明（縦断研究）」（研究分担者、研究代表者：矢ヶ崎 香教授） 横断研究のデータは、論文化、投稿し、現在査読中である。 縦断研究は、フォローアップ調査を終了し、分析をすすめた。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> ・ 杉本美希，矢ヶ崎香．Advanced Oncology Nursing No.3「血管外漏出の予防と早期発見および早期対処」，株式会社先端医学社		

分野：基礎看護学・がん看護	職位：教授	氏名：鈴木 美穂
<b>研究テーマ：</b> 1. ナースプラクティショナーの活動のアウトカム評価 2. がん関連症状へのエビデンスに基づくケアに関する実装研究		
<b>キーワード：</b> ナースプラクティショナー、がん関連症状、根拠に基づく実践（EBP）、実装研究、高齢者		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. さまざまな場におけるナースプラクティショナーの活動に関する研究結果をまとめて、成果報告会を開催した。 2. がん関連症状へのエビデンスに基づくケアに関して、複数の医療施設の看護師にインタビュー調査を行い、根拠に基づく実践への促進因子と阻害因子の検討を開始した。 3. 厚労科研「患者・市民参画を推進しビッグデータを活用した高齢がん患者の在宅療養環境の実態と課題の把握、及び高齢がん患者のフォローアップ体制の構築に資する研究」において研究分担者として活動した。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> <b>【論文】</b> Masahide Koda, Nahoka Harada, Naako Sato, Tomoko Araki, Kazuya Honda, Takemi Kudo, Takao Watanabe, <u>Miho Suzuki</u> . Nurse Practitioner Placement in A Nursing Home in Japan. The Journal for Nurse Practitioners, 20(1), 2023. DOI: <a href="https://doi.org/10.1016/j.nurpra.2023.104845">https://doi.org/10.1016/j.nurpra.2023.104845</a> Jun Kako, Miharuru Morikawa, Masamitsu Kobayashi, Yusuke Kanno, Kohei Kajiwara, Kimiko Nakano, Yoshinobu Matsuda, Yoichi Shimizu, Megumi Hori, Mariko Niino, <u>Miho Suzuki</u> , Taichi Shimazu. Nursing support for breathlessness in patients with cancer: a scoping review. BMJ open, 13(10), 2023. DOI: <a href="https://doi.org/10.1136/bmjopen-2023-075024">https://doi.org/10.1136/bmjopen-2023-075024</a> <b>【学会発表】</b> <u>Suzuki M</u> , Sekiguchi N, Saito M, Koda M, Honda K, Watanabe T. Changes in outcomes from before to after employing nurse practitioners in cardiovascular hospitals in Japan. The 1st Asian and Pacific Congress for Nurse Practitioners. December 2, 2023. Taipei, Taiwan. <u>鈴木美穂</u> , 新野真理, 清水陽一, 堀芽久美, 森川みはる, 梶原弘平, 小林成光, 菅野雄介, 中野貴美, 島津太一. がん患者における薬物療法の皮膚障害に対する看護支援についてのスコーピングレビュー. 第8回日本がんサポーターズケア学会学術集会. 2023年6月23日. 奈良		

分野：小児看護学	職位：准教授	氏名：添田 英津子
<b>研究テーマ：</b> 1. 肝移植患児に対する移行期支援に関する研究 2. 教育ツール「小児看護ゲーム」の開発に関する研究 3. 学校教員を対象としたプログラム口腔溶液投与に関する研修プログラムの構築（研究代表者・小澤典子） 4. 子どもたちが治療や療養に向き合うための環境づくり（研究代表者・富崎悦子） 5. 在日外国人を含む親子と地域医療のインクルーシブな交流の検討（研究代表者・小澤典子）		
<b>キーワード：</b> 肝移植、小児、看護、移行期支援、野外教育活動、ゲーム		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 肝移植患児に対する移行期支援に関する研究 1989年、わが国で最初の生体肝移植が行われてから、30年以上の年月が経過した。多くの肝移植患児（患児）が成長発達を遂げ、社会生活を送っている。一方で、患児が、小児期から成人期への移行する際の支援である移行期支援体制は未整備のままであり、これまでは、患児/家族と医療従事者の試行錯誤により支えられてきたのが実情である。長期経過とともに、原疾患の再発やアドヒアランスの低下による再移植や再々移植が報告されるようになり、移行期支援体制を整えることが課題となっている。この研究の目的は、移植の黎明期に肝移植手術を受け長期生存を遂げた患児の移行期支援の現状や課題を抽出し、わが国独自の移行期支援を構築することである。 2023年度は、海外で行われている野外教育活動に、わが国で肝移植を受けた子ども2名とともに参加した。言葉や文化の壁を越えて、同じ境遇の子どもたちが集まり、共に時を過ごした。2024年度は、継続して海外の野外教育活動に参加し、その効果を評価すること、また、新型コロナウイルス感染症流行状況にもよるが、わが国の野外あるいは屋内の教育活動を移行期支援として構築することを予定している。 2. 教育ツール「小児看護ゲーム」の開発に関する研究 小児看護学における隣地実習は、少子化に加え、小児医療の集約化や在宅への移行が進んだことにより、実習施設の確保が難しい。また、在院日数が短くなり、受持ちできる患児が少ないなど、さらに厳しい状況にある。加えて、近年の新型コロナウイルス感染症流行により、隣地実習ができない状況と遭遇した。そこで、もともと患児の在院日数が短い米国では、学生の学びを補充するシミュレーションやゲームなどが教育ツールとして活用されていることをモデルとし、「小児看護ゲーム」を作成した。2023年度は、小児看護学の目標につき、主たる小児看護学の教科書の記載から概念分析を行った。 （研究テーマ3～5については、研究代表者業績を参照）		

**研究成果・業績（論文・発表等）：**

<学会発表>

移植看護に求められている看護実践力に関する文献検討、萩原邦子、森田孝子、野尻佳代、古米照代、眞野恵子、添田英津子、習田明裕、日本移植・再生医療看護学会学術集会プログラム・抄録集、18、29、2023

移植看護の概念分析、習田明裕、添田英津子、眞野恵子、古米照代、萩原邦子、野尻佳代、森田孝子、日本移植・再生医療看護学会学術集会プログラム、18、26、2023

療養中の子どもの教育支援に関する多職種連携の現状についてーフォーカスインタビューーと通した検討、宗皓、富崎悦子、添田英津子、小児保健研究、82、174、2023

Meet the Legend Professors 「わが国の移植医療、過去、現在、未来」、剣持敬、添田英津子、雨宮浩、小柳仁、門田守人、寺岡慧、高橋公太、岩城裕一、星長清隆、近藤丘、移植、57 (4)、303-317、2023

<社会活動>

日本移植・再生医療看護学会 理事長

日本移植学会 評議員

日本肝移植学会 幹事

日本子宮移植研究会 理事

公益社団法人日本臓器移植ネットワーク 理事

分野：地域看護学	職位：教授	氏名：田口 敦子
<b>研究テーマ：</b> 1. PHR (Personal Health Record) 活用による自治体保健師マネジメントツールの開発 2. ライフヒストリー法による援助要請しない地域在住高齢者への社会的孤立予防策の探求 3. 子育て世代が担い手として住民組織活動に参加する要因と体験：首都圏郊外のニュータウンでの質的研究		
<b>キーワード：</b> 1. PHR (Personal Health Record)、自治体保健師 2. 援助要請、ライフヒストリー 3. 住民組織、子育て世代		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 住民の健診データや保健師活動記録を蓄積・活用することで、保健師活動の質を評価し改善を図ることを目的とした保健師活動マネジメントツールの開発を目指す。保健師活動マネジメントツールを全国の自治体に普及することで、サービスの質の標準化や自治体間の連携促進に寄与することが期待できる。2023年度はアルファ版を作成することができたため、今後はベータ版の作成に向けて検証を行う。 2. 援助要請しない高齢者の人生において援助要請しない状況に至った心理的要因、および身体的・精神的問題が生じた際にその高齢者が発する微かな援助要請兆候を明らかにすることを目的とした。援助要請しない高齢者の定義は、「高齢者の身体的・心理的問題に対してサービス利用が必要と専門職は判断したが、受け入れて貰えなかった者」とした。2023年度は地域包括支援センターの専門職から紹介を受け、インタビュー調査を3名に行うことができた。その結果、「自己の問題への気づき」や「問題の重大性の評価」(高木, 1997)において、高齢者と専門職とのギャップがある可能性や、高齢者の長年のライフスタイルや過去の経験が影響している可能性が示唆された。 3. 子育て世代が担い手として住民組織活動への参加が盛んな地区を対象に、子育て世代が住民組織活動に参加する要因、および体験していることを探った。参与観察と半構造面接によるインタビュー調査を実施した。子育て世代が地域参加する要因では【住民同士のつながる機会をつくるのが役割と思う人がいる】【子育て世代と地域活動との接点複数ある】【ふるさとを感じられるシンボルがある】が抽出された。また、子育て世代の体験として、【地域参加の楽しさを感じる】【地域とのつながりの大切さを感じる】【無理しないで活動する】【自分の考えが尊重される】が抽出された。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> ・Murayama H, Sasaki S, Takahashi Y, Takase M, Taguchi A. Message framing effects on attitude and intention toward social participation in old age. BMC Public Health. 23, 1713, 2023 ・Uezato A, Sakamoto K, Miura M, Nakajima T, Quí P, Jeong S, Tomita S, Saito Y,		

Fukuda Y, Yoshizawa N, Taguchi A. Mental health and current issues of migrant workers in Japan: a cross-sectional study of Vietnamese workers” has been successfully submitted online and is presently being given full consideration for publication in International. Journal of Social Psychiatry. 2023. DOI: 10.1177/00207640231196742

- ・田口敦子, 赤塚永貴, 大澤まどか. ICT 活用により保健師活動はどう変わっていくのか? 保健師による DX 推進の可能性と意義. 保健師ジャーナル 79(5), 370-375, 2023.
- ・臺有桂, 田口敦子, 中山直子, 石川志麻, 加藤由希子, 宮川祥子. 神奈川県における保健師養成校の保健師教員による新型コロナウイルス感染症応援派遣活動の報告—健康危機管理における受援体制整備とネットワーク構築に焦点を当てて—. 神奈川県立保健福祉大学誌, 20 35 - 47, 2023.

所属分野：急性期看護学	職位：教授	氏名：武田 祐子
研究テーマ：遺伝性腫瘍患者・家族に対する適切な医療の活用とQOL向上を目指した看護支援の開発		
キーワード：遺伝性腫瘍患者・家族 QOL向上 看護支援 看護教育		
<p><b>今年度の研究活動の概要：</b></p> <p>共同研究として実施した、がん看護専門看護師のがんゲノム医療への関与の実態、遺伝性乳がん卵巣がん症候群患者のリスク低減卵管卵巣摘出術前の意思決定の様相、カウデン症候群の診断ガイドライン、についての論文が公表された。</p> <p>研究指導した博士論文（遺伝性腫瘍の遺伝学的検査結果の家系内での共有）、修士論文（消化管過誤腫性腫瘍好発疾患群の患者の現状）の成果が、それぞれ英論文投稿、学会発表された。</p>		
<p><b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b></p> <p>1) Fukuzaki N, Kiyozumi Y, Higashigawa S, Horiuchi Y, Matsubayashi H, Nishimura S, Mori K, Notsu A, Suishu I, Ohnami S, Kusahara M, Yamaguchi K, Doorenbos AZ, <u>Takeda Y</u>. A Cross-sectional Study of Regret in Cancer Patients After Sharing Test Results for Pathogenic Germline Variants of Hereditary Cancers With Relatives. Cancer Nurs. 2023 Mar 7. doi: 10.1097/NCC.0000000000001224. Epub ahead of print. PMID: 36881649.</p> <p>2) Takayama T, Muguruma N, Igarashi M, Ohsumi S, Oka S, Kakuta F, Kubo Y, Kumagai H, Sasaki M, Sugai T, Sugano K, <u>Takeda Y</u>, et.al. Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Cowden Syndrome/PTEN Hamartoma Tumor Syndrome in Children and Adults-Secondary Publication. J Anus Rectum Colon. 2023 Oct 25;7(4):284-300. doi: 10.23922/jarc.2023-028. PMID: 37900693; PMCID: PMC10600266.</p> <p>3) 今井 芳枝, 大川 恵, 日下 咲, 下川 亜矢, 納富 理絵, 松本 仁美, 阿部 彰子, 吉田 加奈子, 村上 好恵, <u>武田 祐子</u>, ほか、遺伝性乳がん卵巣がん症候群と診断された乳がん罹患患者のリスク低減卵管卵巣摘出術前の意思決定の様相：日本がん看護学会学術集会 38 回 Page508(2024.02)</p> <p>4) 村上 好恵, 今井 芳枝, <u>武田 祐子</u>, ほか、がん看護専門看護師のがんゲノム医療への関与の実態：四国医学雑誌(0037-3699)79 巻 3-4 号 Page165-172(2023.09)</p> <p>5) 武田 祐子、「自分らしく生きる」を支えるために看護ができること：日本遺伝看護学会学術大会抄録集 21 回 Page npl(2023.08)</p> <p>6) 高橋 佳子, <u>武田 祐子</u>、医療者が捉えた消化管過誤腫性腫瘍好発疾患群の患者の現状：日本遺伝看護学会学術大会抄録集 21 回 Page 0-06(2023.08)</p>		

分野：慢性期・終末期看護学	職位：専任講師	氏名：田村 紀子
<b>研究テーマ：</b> 1. パーキンソン病患者の排便セルフケアに関する研究 2. がん化学療法による皮膚障害のセルフマネジメントに対する自己効力感尺度の開発 3. VUCA時代の看護管理能力を高めるケースメソッド教育プログラムの開発		
<b>キーワード：</b> パーキンソン病、便秘、セルフケア、自己効力感、ケースメソッド教育		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 大学病院パーキンソン病センターの医師が主催する院内勉強会への参加、パーキンソン病の診療や看護に携わる病院スタッフとの討議、文献レビューを通して、外来通院中のパーキンソン病患者の排便セルフケアに関する質的研究を計画し、調査施設の倫理委員会に審査申請を行った。現在、データ収集中である。2023年度塾内学事振興資金（個人研究）による助成を受けた。  2. 大学病院の乳腺外科、消化器内科、腫瘍センターにおいて、副作用として皮膚障害（手足症候群、ぎ瘡様皮疹、爪囲炎等）が生じる可能性のある薬剤を用いた治療を受けている乳がん、消化器がんの患者100名への質問紙調査を終えており、分析中である。  3. 昨年に引き続き、研究代表者（小池智子准教授）の行う大学病院看護部の看護師長研修に参画し、ケースメソッド教育プログラムの教材作成と評価に携わった。臨床現場における新人教育やキャリア開発支援に関する教材作成を提案・企画し、関連部署にヒアリングを行い、ケース教材：「3年目の壁を破るキャリア開発支援」を作成した。その他、看護部で作成した2つのケースについて、ケースライティングの一部に携わった。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小池智子，加藤恵里子，内田智栄，宗廣妙子，岡本陽子，勝又徳子，田村紀子．看護管理能力を高めるケースメソッド教育プログラムの実施と評価．第27回日本看護管理学会学術集会，2023年8月25日-26日（東京）．</li> <li>・ 佐藤みほ，田村紀子，藤村朗子，他．看護系大学教員のコンピテンシーと心理的安全性との関連－仕事への向き合い方と個人資源に着眼して．第43回日本看護科学学会学術集会，2023年12月9日-10日（下関）．</li> <li>・ Miho Satoh, Naoko Sato, Akiko Fujimura, Noriko Tamura. Relationship between competencies, psychological safety, and faculty positions among academic nurse educators in Japan. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (Hong Kong).</li> </ul>		

分野：母性看護学／助産学	職位：准教授	氏名：辻 恵子
<b>研究テーマ：</b> 1. 助産ケアの実践知を活かす包括的な周産期遺伝看護ケアの協働モデルの構築 2. チームの納得を促進するための看護師のコーディネート力向上プログラム開発と評価 3. 分娩第2期持続時間が母児の有病率に及ぼす影響 4. 周産期遺伝診療外来の診察場面におけるクライアントと医療者の相互行為		
<b>キーワード：</b> 出生前診断、周産期遺伝看護、shared decision making、看護師の調整力、分娩期ケア		
<b>今年度の研究活動の概要：</b>		
<b>研究テーマ1について：データ分析と公表</b>		
胎児の出生前検査の提供に関わる助産師の経験と認識を明らかにすることを目的とした調査では、関東、中国、関西地区他の周産期部門に勤務する助産師13名に対し面接を実施し、今年度は分析を終了した（成果は学会にて発表）。2024年度中に論文公表予定である。		
<b>研究テーマ2：プログラム開発とパイロットスタディ（分担者）</b>		
昨年度までに看護師の調整力に関する概念分析、尺度開発を行い、今年度は調整力の向上を目的としたワークで構成される体験型の教育プログラム開発に携わった。2023年度に実施したパイロットスタディ（2024.2）の評価から当該プログラムの精錬していく予定である。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b>		
（学会発表・著書・その他）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Keiko Tsuji, Miho Kakuta: Experiences of Japanese Midwives with Provision of Prenatal Testing. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024.3.6-7 (Hong Kong).</li> <li>・ Yasuko Hososaka, Yurika Saito, Takako Ikeshita, Yuki Kanazawa, Keiko Tsuji: Why Some People Do Not Have Children: Analysis of the World Values Survey in 17 Asian Regions. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024.3.6-7 (Hong Kong).</li> <li>・ 宮川祥子, 赤塚永貴, 池下貴子, 石川志麻, 加藤由希子, 田口敦子, 辻恵子, 土江田奈留美, 永田智子, 平野優子, 深堀浩樹, 細坂泰子, 真志田祐理子, 山本なつ紀, 武田祐子. 慶應義塾大学看護医療学部での看護教育DXの取り組み. 第11回看護理工学学会学術集会. 2023年6月10日. 兵庫県神戸市. (研究奨励賞)</li> <li>・ 辻恵子. 第1部第1章 母性看護学実習の心構えと倫理, 第4部 Q5-7. 細坂泰子編. 母性看護学実習ハンドブック. p.2-12, 162-166, 中央法規出版. (東京).</li> <li>・ 辻恵子: Researcher's Eye . ケアとエンパワメント. 三田評論 2023年7月号 p.48 掲載 (社会活動など)</li> <li>・ 日本遺伝看護学会 専任査読委員 学会誌編集委員会委員長</li> <li>・ 日本助産学会 専任査読委員</li> <li>・ 東京慈恵会医科大学大学院医・学研究科 非常勤講師 (「母性看護学特論III」)</li> <li>・ 日本赤十字看護大学 さいたま看護学部 非常勤講師 (「遺伝と遺伝カウンセリング」)</li> </ul>		

分野：小児看護学	職位：専任講師	氏名：富崎 悦子
<b>研究テーマ：</b> 1. 子どもの非認知能力に関する研究（非認知能力に影響する環境） 2. 子どもの成育環境を整えるための研究 3. 地域づくり（多世代交流をふまえて災害などに強い地域づくりの検討） 4. コンセプトベースドラーニングについて		
<b>キーワード：</b> 子ども・環境・非認知能力・地域エンパワメント・コンセプトベースドラーニング		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. ブコラムの研修プログラムをブラッシュアップし、8月に特別支援学校の養護教諭に向けて行った。さらに3月にも特別支援学校でも研修プログラムを施行。今後効果を分析し、発表していく予定。 2. コンセプトベースドラーニングについての勉強会をオンラインで Giddens 先生をお迎えして6月に行った。さらに8月の看護教育学会でも交流セッションを開催した。今後は、Giddens 先生の本を訳していく予定。 3. 11月に「Whole Person Health & Healthy Ageing」研究会を開催。イギリスと中国から教授をお迎えし、国内の院生や先生方との交流を図った。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> ・ SYSTED (The Needs During Disaster for Child Raising Generation) ・ 公衆衛生学会（住民主体の地域づくりに向けたニーズと評価 安心安全な子育てに焦点をあてた FGI 調査）		

分野：在宅看護学	職位：教授	氏名：永田 智子
<b>研究テーマ：</b> 1. 療養場所の移行における療養継続支援、外来における在宅療養支援 2. 地域活動の実施・継続・参加に関する研究 3. 在宅療養者における住環境整備に関する研究（構想中）		
<b>キーワード：</b> 1. 退院支援、在宅療養支援、患者参加、意思決定支援、多職種協働、多職種連携 2. 地域活動、住民参加 3. 在宅療養者、住環境		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 昨年度実施した、COVID-19 禍における退院支援に関する全国調査の分析を進め、学会発表を行うとともに、投稿の準備を進めている。本調査では、全国の一般病床を有する100床以上の医療機関の退院支援担当者（1施設当たり1名）を対象とし、3583施設中776施設から回答を得た。COVID-19 禍においても、家族や地域ケア提供者が退院支援に参加できるよう、zoom等を用いた工夫を行っている医療機関が多くみられた。一方、患者本人が退院支援のカンファレンス等に参加していない医療機関も多く、退院支援プロセスへの患者参加を促進するための研究を引き続き進めたいと考えている。 2. 藤沢市で実施されている「地域の縁側」は、地域の居場所づくりに焦点を当てつつ様々な運営母体・対象・活動内容を包含した、オリジナルな制度である。コロナ禍において活動の停滞が見られたことから、2022年度に共同研究者とともに「地域の縁側」運営者へのインタビュー調査を実施し、2023年度には一部を分析して学会発表した。現在、論文投稿を目指して準備中である。また、2022年度末から2023年度にかけて、藤沢市内の遠藤地区および辻堂団地において、一般住民を対象とした調査を行い、地域活動への参加やその他の社会活動への参加状況について把握し、分析を行っているところである。 3. 在宅療養者における住環境整備については、現在在宅療養中の療養者の居住環境に関するデータベース構築、および、これから在宅療養を開始する患者向けのツール開発について、現在可能性を検討しているところである。		

**研究成果・業績（論文・発表等）：**

学術論文（査読あり）

- ・ Kato Y, Shinozaki T, Sugiyama D, Taguchi A, Nagata S. Potential motivators affecting parental intention in COVID-19 vaccination for children aged 6 months to 4 years: implications for targeted vaccine interventions in Japan. *Human Vaccines & Immunotherapeutics*, 19(3), 2023（査読あり）
- ・ 永井智子, 米倉佑貴, 梅田麻希, 麻原きよみ, 川崎千恵, 小林真朝, 嶋津多恵子, 遠藤直子, 大森純子, 三森寧子, 江川優子, 永田智子, 佐伯和子, 佐川きよみ, 小西美香子. 自治体保健師のための地区活動に関する評価尺度の開発：地区活動の内容, 保健師の認識, 組織環境に着目して. 日本公衆衛生雑誌, 70 (11), 759-774, 2023（査読あり）
- ・ 永田智子. 訪問看護事業所における質改善に向けた評価とその活用. *コミュニティケア* 25 (13), 6-11, 2023（査読なし）

学会発表

- ・ 永田智子. コロナ禍における退院支援への家族・地域ケア提供者の参加状況：一般病床を有する病院への全国調査より. 日本地域看護学会第26回学術集会
- ・ 加藤由希子, 篠崎智大, 杉山大典, 田口敦子, 永田智子. 生後6か月以上5歳未満の子を持つ保護者の子への新型コロナワクチン接種意図—対象に合わせた介入方策への示唆—. 日本地域看護学会第26回学術集会
- ・ 内山映子, 山本なつ紀, 永田智子. コロナ禍での「地域の縁側」の役割への認識と活動継続への取り組み：質的記述的研究. 第82回日本公衆衛生学会総会

分野：精神看護学	職位：教授	氏名：野末 聖香
<b>研究テーマ：</b> 1. 心不全患者の睡眠とメンタルヘルスの改善を目指した遠隔看護の開発と効果検証 2. Covid-19パンデミック下で活動する精神看護専門看護師のための支援ツールの開発 3. 看護師のアサーション 4. 災害が看護師のメンタルヘルスに及ぼす影響 5. 心不全患者が日常生活に運動療法を取り入れる体験に関する質的研究		
<b>キーワード：</b> リエゾン精神看護、精神看護専門看護師、睡眠障害、遠隔看護、うつ、心不全患者、アサーション		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 心不全患者の睡眠とメンタルヘルスの改善を目指した遠隔看護に関するフィージビリティ調査の成果をまとめ、作成したプログラムの介入効果を検証する予定。 2. Covid-19パンデミック下で活動した精神看護専門看護師に対するインタビュー調査の結果を元に、パンデミックにおける精神看護専門看護師のための支援ツールを作成する予定。 3. 災害が看護師のメンタルヘルスに及ぼす影響の経時的変化について、東日本大震災後の調査結果を論文投稿する予定。 4. 循環器内科医師との共同研究において、アプリを活用した運動療法に取り組む心不全患者へのインタビュー調査を実施する予定。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> ・福田紀子, 野末聖香, 田久保美千代, 平岩千明(2023). COVID-19パンデミック下における精神看護専門看護師による看護師支援のプロセス. 日本看護科学学会誌, 43, 547-556. <a href="https://doi.org/10.5630/jans.43.547">https://doi.org/10.5630/jans.43.547</a> ・野末聖香(2023). 次世代の精神医学研究のあり方: 知の統合による課題解決に向けて次世代の精神医学研究に看護学が期待すること. 精神神経学雑誌, 2023 特別号, S451 ・野末聖香(2024). コンサルテーションを看護に活かす 1 コンサルテーションとは. 看護, 76(2), 79-81 ・野末聖香(2024). コンサルテーションを看護に活かす 2 コンサルテーションのタイプと求められるパートナーシップ. 看護, 76(3), 76-80 ・野末聖香(2024). コンサルテーションを看護に活かす 3 コンサルテーションのプロセス. 看護, 76(4), 74-77		

分野：急性期看護学	職位：専任講師	氏名：朴 順禮
<b>研究テーマ：</b> 患者および家族、医療従事者への Well-being を目指す効果的な介入方法の研究・開発・実践・普及を推進するとともに、医療や社会へマインドフルネスとコンパッションによる心のケアの実践と普及を目指す。		
<b>キーワード：</b> マインドフルネス、コンパッション、well-being		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1)患者・家族および医療従事者へのマインドフルネスプログラムの研究開発 2)マインドフルネス、コンパッションに関する教育・普及活動		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> （論文） ・ C. Tanaka, K. wakaizumi, A.Ninomiya, N. Tamura, S. Kosugi, S.Park, M. Sado, D. mimura, Fujisaawa. Impact of continued mind- fulness practice on resilience and well-being in mindfulness - based intervention graduates during the COVID -19 pandemic: A cross - sectional study. Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports. 2(3) 2023年8月  （学会発表等） ・ 朴 順禮 「今、ここで患者と向き合い、コンパッションによりケアする」シンポジウム。 第 28 回日本緩和医療学会。2023 年 6 月 ・ 朴 順禮、竹内真理「患者さんとそのご家族に届けたい心のケアとマインドフルネス」 慶應 HBOC センター市民公開講座。2023 年 6 月 ・ 瀧田 結香、森下 純子、朴 順禮、合田 あゆみ、伊波 巧、菊池 華子、河野 隆志、片岡 雅晴、藤澤 大介。マインドフルネスを基盤とした肺高血圧症患者のためのセルフマネジメントプログラムの Feasibility Study. 第 71 回日本心臓病学会。2023 年 9 月 ・ 浅川翔子、藤島麻美、高橋知彦、朴順禮、武田祐子。看護系大学で開催した看護師復職支援プログラムの効果。第 34 回日本医学看護学教育学会。2024 年3月 ・ 藤島麻美、浅川翔子、高橋知彦、朴順禮、武田祐子。復職を後押しする看護師復職支援プログラムの在り方の検討 ～参加者の語りから～。第 34 回日本医学看護学教育学会。2024 年3月 ・ 朴 順禮 「しなやかな回復力を育む ―職場や非地上に織り込むマインドフルネス―」 令和 5 年 落合保健センター 働く人のストレスマネジメント講座。2023 年 11 月 ・ 朴 順禮 「しなやかな回復力を育む ―穏やかな心と身体を整えるマインドフルネス―」 特別区保健師会臨時研修会。2023 年 11 月 ・ 朴 順禮 「患者さんにご家族に届けたい、心のケアとマインドフルネス」 がん治療と暮らしフェア。2023 年		

分野：精神看護学	職位：助教	氏名：平岩 千明
<b>研究テーマ：</b> 1.精神科救急における看護師による家族支援 2.感染症パンデミック下での精神看護専門看護師による看護師支援		
<b>キーワード：</b> 精神科救急、家族支援、精神看護専門看護師		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 精神科救急における看護師による家族支援 精神科救急の看護師に、家族の視点を踏まえた家族支援についてインタビューを行った。2023年度は入院受け入れ時の支援に着目して分析し、看護師が捉えた家族の心情と、これに応じた支援を7つのカテゴリーに整理した。また、家族の心情把握を促進する関わりと、阻害する状況について明らかにした。(2023年度学事振興資金(個人研究)にて実施)  2. 感染症パンデミック下での精神看護専門看護師による看護師支援(研究分担者) 先行研究で明らかにしたCOVID-19パンデミック下における精神看護専門看護師による看護師支援のプロセスについて、精神看護専門看護師を対象にフォーカスグループインタビューを行い、妥当性を検討した。また、同インタビューにてパンデミック第4波以降の看護師支援についても調査し、感染症パンデミック下における看護師支援の全体像を明らかにするために分析を進めている。		
<b>研究成果・業績(論文・発表等)：</b>  福田紀子,野末聖香,田久保美千代,平岩千明(2023):COVID-19パンデミック下における精神看護専門看護師による看護師支援のプロセス:日本看護科学学会誌,43,547-556.		

分野：地域看護学	職位：助教	氏名：平野 優子
<p><b>研究テーマ：</b>※1-3) 筆者が研究代表 4-6) 所属分野の他の教員が研究代表</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 侵襲的人工呼吸器装着筋萎縮性側索硬化症患者の病い経験とレジリエンスに関する縦断的本調査（慶應 SFC 学会研究助成：研究代表 平野優子）</li> <li>2) 侵襲的人工呼吸器装着 ALS 患者と家族ペアでのライフ経験把握とレジリエンス促進要因の探索に関する研究（科研費基盤 C：研究代表 平野優子）</li> <li>3) COVID-19 感染症流行下の母親の妊娠期から子育て期の経験とレジリエンス促進要因の解明に関する研究（福澤基金：研究代表 平野優子）</li> <li>4) ICT 活用による保健師活動評価手法開発及び PDCA サイクル推進に資する研究（厚労科研：研究代表 田口敦子教授）</li> <li>5) ライフヒストリー法による援助要請しない地域在住高齢者への社会的孤立予防策の探求（科研費萌芽研究：研究代表 田口敦子教授）</li> <li>6) 大規模団地における VUCA 時代の全世代対応型孤立化予防研究（科研費基盤 C：研究代表 石川志麻専任講師）</li> </ol>		
<p><b>キーワード：</b> 筋萎縮性側索硬化症、母親、ライフ経験、レジリエンス、ICT、援助要請、孤立</p>		
<p><b>今年度の研究活動の概要：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 侵襲的人工呼吸器装着 ALS 患者を対象に、病い経験とレジリエンスとの関連を縦断的に明らかにすることを目的に、質問紙票調査と半構造化面接調査を実施した。</li> <li>2) 侵襲的人工呼吸器装着 ALS 患者と家族ペアでのライフ経験把握とレジリエンス促進要因の探索を行い、対象理解と支援策の検討を行うことを目的に、共同研究者間で研究計画の打ち合わせを行った。文献検討と、当該分野のフィールドに出向き情報収集を行っている。研究倫理審査の承認を得て、対象への調査を開始した。</li> <li>3) COVID-19 感染症流行下の母親の妊娠期から子育て期の経験とレジリエンス促進要因を解明することによって切れ目のない支援策の探求を行うことを目的に、文献検討、当該分野のフィールドに出向くなどの情報収集、ならびに母親を対象にライフ・ライン・メソッドを用いた質問紙票調査と半構造化面接調査を実施した。</li> <li>4) 母子保健活動プロセスの可視化、保健師実践用語標準マスターの構造と内容の整理を目的に、研究代表者の田口教授のリーダーシップのもとで研究者間で議論を重ねた。</li> <li>5) 高齢者の社会的孤立のない社会の実現を目指すことを目的に、身体的・精神的問題に対して援助要請しない高齢者へのライフヒストリー・インタビュー実施と、高齢者の援助要請に関する文献レビューについて、研究代表者の田口教授を中心に実施した。</li> <li>6) 2 地域の大規模団地の全世代対応型孤立化予防に向けての取り組みや研究計画について、研究代表者の石川専任講師のリーダーシップのもとで、学びと知見を深めた。</li> </ol>		

**研究成果・業績（論文・発表等）：**

**【学術論文】**

・平野優子．人生を脅かす疾患や障害と生きる人々の時間軸を含むライフ経験とレジリエンスとの関連に関する文献検討．日本看護科学会誌，43，800-809，2023．

**【学会発表】**

・平野優子．侵襲的人工呼吸器装着 ALS 患者の経験とレジリエンス促進要因に関する縦断的研究－I 事例の予備的調査より－．第 26 回日本地域看護学会学術集会；2023 Sep 2-3；神奈川．（優秀演題賞候補演題選定）

・福田優衣，平野優子，梅垣佑介，田口敦子．地域在住高齢者の援助要請に関する研究 第 1 報：日本の地域在住高齢者援助要請に関するスコーピングレビュー．第 12 回日本公衆衛生看護学会；2024 jan6-7；北九州．

・平野優子，福田優衣，梅垣佑介，田口敦子．地域在住高齢者の援助要請に関する研究 第 2 報：日本の地域在住高齢者援助要請に関するスコーピングレビュー．－高齢者を取り巻く周囲の人の援助要請－．第 12 回日本公衆衛生看護学会；2024 jan6-7；北九州．

・田口敦子，平野優子，福田優衣，吉田裕美，梅垣佑介，岸恵美子，石川志麻，赤塚永貴．地域在住高齢者の援助要請に関する研究 第 3 報：援助要請しない高齢者へのインタビュー調査．第 12 回日本公衆衛生看護学会；2024 jan6-7；北九州．

・吉田裕美，平野優子，福田優衣，田口敦子．地域在住高齢者の援助要請に関する研究 第 4 報：援助要請しない高齢者が適切なサービスに繋がるための専門職の支援内容．第 12 回日本公衆衛生看護学会；2024 jan6-7；北九州．

**【受賞】**

・第 11 回看護理工学会学術集会 優秀演題賞 2023 年 6 月  
宮川祥子，赤塚永貴，池下貴子，石川志麻，加藤由希子，田口敦子，辻恵子，土江田奈留美，永田智子，平野優子，深堀浩樹，細坂泰子，真志田祐理子，山本なつ紀，武田祐子．慶應義塾大学看護医療学部での看護教育 DX の取り組み．

**【競争的研究費・学内助成金】**

・平野優子（主任研究者）．人工呼吸器装着 ALS 患者と家族ペアでのライフ経験把握とレジリエンス促進要因の探索．科学研究費補助金（基盤研究 C）．2023～2025．

・平野優子（主任研究者）．侵襲的人工呼吸器装着 ALS 患者の経験とレジリエンス促進要因に関する縦断的研究（本調査）の患者訪問調査．慶應 SFC 学会研究助成金．2023．

・平野優子（主任研究者）．COVID-19 感染症流行下の母親の妊娠期から子育て期の経験とレジリエンス促進要因の解明．福澤基金．2023．

分野：	-	職位：教授	氏名：深堀 浩樹
<b>研究テーマ：</b> I. 高齢者施設・住まいの避けられる救急搬送・入院への予防・適切な対応に関する研究 II. 超高齢社会におけるケア・看護・医療に関する研究・活動（高齢者施設・住まいにおけるケア、人生の最終段階のケア、家族看護・ケア、テクノロジーの活用、被災地の高齢者ケア等） III. 科学的根拠に基づく実践、研究方法論、看護管理・看護教育、データベースの構築・利活用に関する研究・活動			
<b>キーワード：</b> 高齢者施設・住まい、超高齢社会、家族看護、EBP、看護管理・教育			
<b>今年度の研究活動の概要：</b> <b>I. 高齢者施設・住まいにおける避けられる救急搬送・入院への予防・適切な対応</b> 自身が研究代表者である科学研究費補助金基盤研究(B)「高齢者施設・住まいにおける避けられる救急搬送・入院を削減する複雑介入の開発」において、「入居者の体調不良が生じたときの介護職と看護職の連携を促進するツール」を開発し、その有用性や実行可能性、効果を検討するための認知インタビューの研究プロトコルを完成させた。研究成果として、入居者の急変に対する看護実践についての質的研究と高齢者施設における救急搬送や救急受診の関連要因の検討について2件の学会発表を行った。			
<b>II. 超高齢社会におけるケア・看護・医療に関する研究</b> 高齢者の生きがいのある生活のためのテクノロジー利用ニーズや認知機能低下のあるストーマ保有高齢者のセルフケアに関する研究を実施した。研究成果として、介護サービスにおける介護事故の関連要因の検討などの4編の論文を公表し、認知症教育におけるVRの活用などの4件の学会発表を行った。 社会活動・その他の活動として、介護報酬改定の効果検証事業への委員としての参画、能登半島地震の避難所等の支援者向けの教材開発と普及、日本老年看護学会における4件の交流集会の企画、認知症当事者の方と協働した看護基礎教育の展開についての座談会、米国の家族看護学の研究者と超高齢社会の家族ケアに関する英語教材開発を行った。			
<b>III. 科学的根拠に基づく実践、研究方法論、看護管理・看護教育、データベースの構築・利活用に関する研究・活動</b> 看護学におけるデータベース構築・データベース利活用を促進するための看護系学会を対象とした調査の調査票の開発や看護における科学的根拠に基づく実践の促進に関する研究を行った。研究成果として、自然言語解析による質問紙の自由記述の解析、日本の高度実践看護師の研究論文の批判的吟味の関連要因の検討、看護管理者のコンピテンシーの検討などの3編の論文を公表し、看護教育におけるDxの推進活動の報告やRealist Evaluationという研究方法に関する文献レビューなどの2件の学会発表を行った。 社会活動として、研究報告ガイドラインの活用や国際共同研究の促進のための教育講演、看護教育における生成AIの活用に関する論考の出版、所属学会で試験的行ったオンラインジャーナルクラブの活動の紹介等を行った。			
<b>研究成果・業績（論文・発表等）</b> <b>【論文】</b> 1. Hirooka, K., Fukahori, H., Ninomiya, A., Fukui, S., Takahashi, K., Anzai, T., & Ishibashi, T. (2024). Impact of family involvement and an advance directive to not hospitalize on hospital transfers of residents in long-term care facilities. <i>Arch Gerontol Geriatr</i> , 117, 105183. 2. Inoue, M., Fukahori, H., Matsubara, M., Yoshinaga, N., & Tohira, H. (2023). Latent Dirichlet allocation topic modeling of free-text responses exploring the negative impact of the early COVID-19 pandemic on research in nursing. <i>Jpn J Nurs Sci</i> , 20(2), e12520. 3. Nasu, K., Miyashita, M., Hirooka, K., Endo, T., & Fukahori, H. (2023). Ambulance use and emergency department visits among people with dementia: A cross-sectional survey. <i>Nurs Health Sci</i> , 25(4), 712-720. 4. Tomotaki, A., Sakai, I., Fukahori, H., Tsuda, Y., & Okumura-Hiroshige, A. (2023). Factors affecting the critical appraisal of research articles in Evidence-Based practices by advanced practice nurses: A descriptive qualitative study. <i>Nurs Open</i> , 10(6), 3719-3727. 5. Tsuji, M., Fukahori, H., Sugiyama, D., Doorenbos, A., Nasu, K., Mashida,			

Y., & Ogawara, H. (2023). Factors related to liability for damages for adverse events occurring in long-term care facilities. *PLoS One*, 18(5), e0283332. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0283332>

6. Yamamoto-Takiguchi, N., Uchiyama, E., Fukahori, H., Taguchi, A., & Nagata, S. (2023). Age Group Differences in Daily Life Changes among Community Residents during the COVID-19 Pandemic: A Pilot Study on Intergenerational Comparison. *Keio J Med*, 72(1), 11-20.
7. 相澤恵子, 國江慶子, 深堀浩樹, 谷口陽子, 保科英子, 丸山美津子, 庄子由美, 小玉淑巨, 西田和美, 奥裕美. (2023). 「コンピテンシーを基盤とした看護管理者研修」受講者がコンピテンシーの概念を職場で活用する上での困難と活用に向けた支援ニーズ. *日本看護管理学会誌*, 27(1), 237-246.

#### 【学会発表】

1. 深堀浩樹. (2023). ポストコロナの超高齢社会のあり方 コロナ禍における老年看護の取り組み. *日本老年医学会雑誌*, 60(Suppl.), 18.
2. 真志田祐理子, 深堀浩樹, 鈴木はるの, 高岡茉奈美, 松本博成, 目麻里子, 山本則子, 五十嵐歩. (2023). Virtual Reality教材とカードゲームを用いた認知症教育が看護学生の態度に及ぼす効果. *日本老年医学会雑誌*, 60(Suppl.), 59.
3. 宮川祥子, 赤塚永貴, 池下貴子, 石川志麻, 加藤由希子, 田口敦子, 辻恵子, 土江田奈留美, 永田智子, 平野優子, 深堀浩樹, 細坂泰子, 真志田祐理子, 山本なつ紀, 武田祐子. (2023). 慶應義塾大学看護医療学部での看護教育DXの取り組み 第II回看護理工学会学術集会.
4. Ogawara, H., Fukahori, H., Mashida, Y., Matsumoto, S., Nasu, K. (2023). Nursing Practice for Detecting Changes in Residents' Conditions in Long-term Care Facilities IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023,
5. Nasu, K., Fukahori, H., Miyashita, M. (2023). Long-term care nurses' perceptions of a good death for people with dementia: A qualitative descriptive study 第42回日本看護科学学会学術集会.
6. Mitani, S., Ogawara, H., Sakakibara, T., Fukahori, H. (2023). Using realist evaluation to assess interventions that can improve care older adults: A scoping review 第42回日本看護科学学会学術集会.

#### 【書籍】

1. 水谷信子, 水野敏子, 高山成子 監修., 三重野英子, 會田信子, 深堀浩樹 編集., 最新老年看護学 第4版 2023年版. 日本看護協会出版会.

#### 【社会活動】

1. 能登半島地震の避難所等の支援者向けのオンライン学習用資料 (SONAE) のメンバーの開発 (<https://caid-est2024.hp.peraichi.com/>).
2. 令和3年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査(介護サービス事業者における業務継続に向けた取組状況の把握及びICTの活用状況に関する調査研究事業)の調査検討委員会の委員として災害時・感染症拡大時のBCPの現状について検討.
3. 深堀浩樹. (2023). 報告ガイドラインを研究に活用しよう!. *日本老年看護学会第28回学術集会*.
4. 日本老年看護学会第28回学術集会における交流集会4件の企画
5. 深堀浩樹. (2024). 看護系大学における国際共同研究のためのリサーチマインド・マネジメント. 第23回JANSセミナー(配信期間2024年3月18日~5月31日).

#### 【その他】

1. Anderson, J. G., Chesla, C. A., Fukahori, H., Sakka, M., Honda, J., & Ikeda, M. (2024). Japanese and U.S. Cultural Exchange: Caring for Aging Family Members in the Community. *J Fam Nurs*, 30(1), 3-6.
2. Topaz, M., Peltonen, L.-M., Michalowski, M., Stiglic, G., Ronquillo, C., Pruinelli, L., Song, J., O'Connor, S., Miyagawa, S., & Fukahori, H. (2024). The ChatGPT effect: Nursing education and generative artificial intelligence. *Journal of Nursing Education*, 1-4.
3. 友滝愛, 深堀浩樹, 松石雄二郎, 小笠原絢子, 新福洋子, 高橋聡明, 横田慎一郎, 小玉淑巨, 仲上豪二郎, 大久保暢子. (2023). 地域と専門分野の垣根を越えて学び合い, 新たな可能性を生み出そう! *日本看護科学学会主催オンラインジャーナルクラブの活動*. *看護研究*, 56(5), 418-431.
4. さとうみき, 川崎つま子, 深堀浩樹, 堀田聡子. (2024). 「患者の個別性を支え, 尊厳を守るケア」を看護管理者はいかに支えるか 対話が倫理的な組織文化を醸成する. *看護管理*, 34(2), 116-124.

分野：基礎看護学 看護学教育	職位：准教授	氏名：福井 里佳
<b>研究テーマ：</b> 1. 看護学実習における教員の学生理解と患者中心の看護に向けての支援 2. 看護基礎教育における生活援助技術学習の支援		
<b>キーワード：</b> 看護基礎教育 看護学実習 学生理解 患者中心 生活援助技術		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 本研究は、日本学術振興会科学研究助成事業（若手研究課題番号 18K17436）の助成を受けて実施している。看護学実習において学生が患者中心の看護を行うために、教員が学生の患者理解をどのようにとらえ、「患者中心」の看護への学習支援をどのように行っているのかを明らかにすることを目的に、2022年～2023年に収集した研究参加者である実習担当教員のインタビューデータを質的記述的に分析し、第27回 East Asian Forum of Nursing Scholars で E-poster 発表を行った。 2. 看護基礎教育におけるわざ、特に生活援助技術の学習支援や看護の意味に関する文献抄読を定期的実施し、翌年度の研究計画に向けて準備を行った。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> Rika Fukui, Nursing Teachers' Understanding of and Support for Nursing Students Being Introduced to Patient-Centered Care in Clinical Nursing Practicums, 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong, 2024年3月6-7日.		

分野：精神看護学	職位：教授	氏名：福田 紀子
<p>研究テーマ：</p> <p>研究1：心不全患者のこころと眠りの支援プログラムの効果検証</p> <p>研究2：パンデミック下で活動する精神看護専門看護師の支援ツールの開発</p> <p>研究3：心不全患者が日常生活に運動療法を取り入れる体験に関する質的研究</p> <p>研究4：難民の背景をもち日本で就労しているシリア人の社会的統合（仮題）</p>		
<p>キーワード：</p> <p>リエゾン精神看護，精神看護専門看護師，睡眠障害，メンタルヘルス，心不全患者，質的研究</p>		
<p>今年度の研究活動の概要：</p> <p>研究1：2023年度までに実施したフィージビリティ研究の成果をまとめ、論文投稿の準備中。2024年度以降は、作成したプログラムの介入の効果を検証する予定。</p> <p>研究2：2020年度から取り組んでいる研究を論文として学会誌に公表。この成果を基盤にして行った精神看護専門看護師へのインタビュー調査をもとに、今後はパンデミックにおける精神看護専門看護師の支援ツールを作成する予定。</p> <p>研究3：循環器内科医師との共同研究プロジェクトにおいて、アプリを活用した運動療法に取り組む心不全患者へのインタビュー調査を計画。2024年度はデータ収集と分析の予定。</p> <p>研究4：難民を支援する外部団体研究者との共同研究プロジェクトにおいて、データ収集とデータ分析を進めており、論文にまとめて2024年度中に投稿の予定。</p>		
<p>研究成果・業績（論文・発表等）：</p> <p>福田紀子, 野末聖香, 田久保美千代, 平岩千明(2023). COVID-19パンデミック下における精神看護専門看護師による看護師支援のプロセス. 日本看護科学学会誌, 43, 547-556.</p> <p><a href="https://doi.org/10.5630/jans.43.547">https://doi.org/10.5630/jans.43.547</a></p>		

分野：看護・医療統合	職位：教授	氏名：藤井 千枝子
研究テーマ：①医療安全・看護安全文化の醸成・看護技術. ②福祉工学・ケア工学. ③パーキンソン病患者のQOL. ④遺伝と環境-生命倫理. ⑤心と社会		
キーワード：ケアのSTEAM(Science, Technology, Engineering, Art and Mathematics)教育とELSI(Ethical, Legal and Social Implications)		
<p><b>今年度の研究活動の概要：</b></p> <p>①医療安全分野：医療安全学会機関誌「医療と安全」17号、「看護安全文化の醸成に向けて」と題した特集を編著した。</p> <p>・教育研修委員会企画セミナー2023「バーチャルリアリティを用いた新しい医療安全へのアプローチ」の企画運営を行った。医療と質・安全学会学術集会では、「VR・AR・メタバースによる医療安全活動への応用」の座長および、用語編纂委員として「徹底討論『医療事故』って何だ!？」の演者として報告を行った。</p> <p>・「これからの医療安全：看護における医療安全」m3.comにおいて対談を公開した。 (<a href="https://www.youtube.com/watch?v=Jt0vhhNa5FE&amp;list=PLmZTTE9QqgNShu6rgdwjLyGcZSCMKawJ_&amp;index=8">https://www.youtube.com/watch?v=Jt0vhhNa5FE&amp;list=PLmZTTE9QqgNShu6rgdwjLyGcZSCMKawJ_&amp;index=8</a>)</p> <p>②福祉・福祉工学・ケア工学：計測自動制御学会システムインテグレーション(SI)部門福祉工学部会主査(～12月まで)として、8月に「福祉工学部会シンポジウム」を開催した。SI部門講演会では、オーガナイズドセッション「福祉工学・ケア工学」のオーガナイザーであり、実行委員として携わった。</p> <p>①②⑤科研費基盤研究(C)「観察力を育むハッカソン型危険予知トレーニングによる智慧と科学的思考の共進(2023年～2027年)」をスタートした。</p>		
<p><b>研究成果・業績(論文・発表等)：</b></p> <p><b>論文</b></p> <p>藤井千枝子. 看護技術の暗黙知と形式知. 医療と安全(2023) 32-35.</p> <p><b>発表</b></p> <p>藤井千枝子. ケアの可視化と身体知理解に向けたアバターによる危険予知トレーニングの教材化の探索. SI2023</p> <p>上坂匡、前田郁美、中内靖、藤井千枝子. パーキンソン病の姿勢保持障害を改善する鏡インタフェース. SI2023</p> <p><b>査読</b></p> <p>BMC Geriatrics、Journal of Nursing Measurement、日本難病看護学会誌、計測と制御、ヒューマンインターフェイス学会論文誌</p> <p><b>社会活動など</b></p> <p>神奈川県藤沢市片瀬地区社会福祉協議会副会長、医療安全学会理事、福祉工学学会理事、計測自動制御学会代議員を担った。</p>		

分野：急性期看護学	職位：助教	氏名：藤島 麻美
<b>研究テーマ：</b> 1. 大学の教育環境を活用した潜在看護師に対する復職支援プログラム 2. 成人期発症型喘息患者のセルフマネジメントを強化する看護支援モデルの開発		
<b>キーワード：</b> 復職支援、潜在看護師、セルフマネジメント、喘息、看護支援		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 【大学の教育環境を活用した潜在看護師に対する復職支援プログラム】 潜在看護師に対する復職支援プログラムの開発と実施の効果を明らかにすることを目的とし、オンデマンドで学べる事前学習コンテンツと1日の対面研修の組み合わせによる復職支援プログラムを2023年8月に行い、参加者を対象としたアンケートとインタビュー調査によりその効果を検証した。研究分担者として、研修の講師およびインタビュー調査の実施、分析を行った。本研究は2023年度慶應義塾大学学事振興資金の援助を受けて行い、研究成果を第34回日本医学看護学教育学会学術集會にて発表した。 2. 【成人期発症型喘息患者のセルフマネジメントを強化する看護支援モデルの開発】 成人期発症型喘息患者のセルフマネジメントの構成要素と影響要因を質的研究から明らかにすることを目的とし、前年度に収集したデータを分析と先行研究のレビューを行った。また、研究結果から得られた知見を活用し、セルフマネジメントを継続する上で必要なスキルとして医療者とのコミュニケーションの方法について、患者会にて講演を行った。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> <b>【学会発表】</b> 1. <u>藤島麻美</u> , 浅川翔子, 高橋知彦, 朴順禮, 武田祐子, 復職を後押しする看護師復職支援プログラムの在り方の検討 ～参加者の語りから～ 第34回日本医学看護学教育学会学術集會, 2024年3月2日 2. 浅川翔子, <u>藤島麻美</u> , 高橋知彦, 朴順禮, 武田祐子, 看護系大学で開催した看護師復職支援プログラムの効果, 第34回日本医学看護学教育学会学術集會, 2024年3月2日 <b>【講演】</b> 1. <u>藤島麻美</u> , 「うまくいく!医療者との上手なコミュニケーション」, 認定NPO法人日本アレルギー友の会実践講座とおしゃべりカフェ(ぜんそく部門) 2024年2月26日 <b>【社会活動】</b> 1. 潜在看護師に対する復職支援プログラムの実施 2023年8月30日		

分野：グローバルヘルス	職位：准教授	氏名：藤屋 リカ
<b>研究テーマ：</b> 1. 慢性的紛争下を生きる青少年のヘルスリテラシー向上：混合研究法による教育ツール開発 2. パレスチナの母子保健・リプロダクティブヘルスに関する研究：MICS (Multiple Indicator Cluster Surveys) 分析 3. 看護教育に対する COVID-19 蔓延の影響・看護学生への海外研修プログラムの効果		
<b>キーワード：</b> ヘルスリテラシー、学校保健、母子保健、リプロダクティブヘルス、プライマリーヘルスケア、健康格差の是正、パレスチナ、COVID-19、教育プログラム評価		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> <p>慢性的紛争下を生きる青少年のヘルスリテラシー向上：混合研究法による教育ツール開発（基盤研究 B）を 4 年計画の初年度として研究を開始した。中東の青少年のヘルスリテラシーに関してのレビュー論文を国際学術誌に発表した。2024 年度のデータ収集に向けての文献レビュー、質問紙の作成、パレスチナの大学との調整などに取り組んだが、2023 年 10 月のパレスチナ情勢の悪化により、データ収集は 2025 年度に変更した。また、2022 年度に終了した、ヘルスリテラシーや学校保健活動参加がパレスチナ人生徒の健康や就学に与える影響（基盤研究 C）において Photovoice 手法を用いて収集したデータを分析し結果について論文にまとめて、国際学術誌に投稿中である。</p> <p>パレスチナでのデータ収集が困難な状況を鑑みて、UNICEF のデータである MIC を用いて、リプロダクティブヘルスや若年女性に着目したデータ分析を開始した。</p> <p>看護学生への海外研修プログラムの効果に関しては、短期留学受け入れプログラムの対面開催の再開に伴い、体験を重視した内容をインフォーマルに評価した。COVID-19 蔓延が収束した 2024 年度のプログラムでは、前年度に比べ留学生の慶應義塾大学病院での見学体験の評価が非常に高くなっており、感染予防に十分に配慮したうえでの体験を重視したプログラムが有効であることが示唆された。</p>		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> Sarhan MBA, <u>Fujiya R</u> , Kiriya J, Htay ZW, Nakajima K, Fuse R, Wakabayashi N, Jimba M. Health literacy among adolescents and young adults in the Eastern Mediterranean region: a scoping review. BMJ Open. 2023 Jun 8;13(6):e072787. doi: 10.1136/bmjopen-2023-072787. <u>藤屋リカ</u> . 難民・移民の声に答えて：戦禍のなかで誕生する新しい命— パレスチナからのメッセージ. 別冊「医学のあゆみ」グローバルヘルスの現場力, p62-67, 2023 年 8 月. <u>藤屋リカ</u> . 社会に受け容れられる方法を模索しながらの「性の健康」の教育 パレスチナの医療系 NGO の取り組み. 「性の健康」, 22 (2) , p28-31 , 2023 年 6 月.		

分野：母性看護学/助産学	職位：教授	氏名：細坂 泰子
<b>研究テーマ：</b> 1. 国際・学際横断的連携による虐待に移行させない子育て支援モデルの構築 2. 分娩時の助産師との連携に対する医師の認識 3. 少子化問題		
<b>キーワード：</b> 子育て支援、しつけと虐待の境界、助産師と医師の連携、少子化		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 国際・学際横断的連携により、しつけと虐待の境界に焦点をおいて調査を進めている。2023年度は日本と英国でのインタビュー調査の継続およびデータ分析を行い、日英データの近似点、相違点が抽出された。現在、論文化している。 2. 安全で安心な分娩の維持が困難となりつつある現在の周産期分野では、これまで以上に医師と助産師の連携が必須である。そのため分娩ケアに関わる際に産科医は助産師にどのような認識を持ち、分娩に携わっているのか、医師側の認識を明らかにすることで課題を明確にした。2024年度に論文掲載が決定している。 3. 世界価値観調査データを用いて、少子化の影響要因を分析した。結果はEAFONSで発表した。また少子化に関連する諸要因についてNHK総合テレビ特集番組で説明した。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> Hososaka Y., Kayashima K., Goetz J.T., Rooksby M., (2024). A Marginalised Role in Parenting and Maltreatment Risks-A Qualitative Content Analysis of Fathers in Japan Reflecting on their Parenting Experiences. Journal of Child and Family Studies, DOI:10.1007/s10826-023-02707-9 細坂泰子編（2023）.母性看護学実習ハンドブック.中央法規出版.東京 Hososaka, Y., Saito, Y., Ikeshita, T., Kanazawa, Y., Tsuji, K. (2024). Why some people do not have children: Analysis of the World Values Survey in 17 Asian regions. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars. 2024年3月5～6日.中国香港. 細坂泰子, 茅島江子, 堀井光俊, Rooksby Maki. ナラティブからとらえる虐待の境界に存在する子育て期女性の育児実践 -コロナ禍による影響-. 第30回日本家族看護学会学術集会. 2023年9月10日.大阪府吹田市. 末延睦与, 細坂泰子. 分娩時における医師と助産師の連携に対する医師の認識. 第43回日本看護科学学会学術集会. 2023年12月9日. 山口県下関市. 細坂泰子.NHK総合テレビ 特集「子どもがいない世界」がやってくる?! 2024年1月9日(火) 23:45～0:39 専門家ゲストとして出演 再放送 2024年2月12日(祝) 13:00～13:54 児童虐待刑事事件に対する警察への協力活動(2023年7月20日,2024年1月16日)		

分野：老年看護学	職位：助教	氏名：真志田 祐理子
<b>研究テーマ：</b> 1. 高齢者の生きがいのある生活のためのテクノロジー利用ニーズに関する研究 2. 高齢者施設における看護職と介護職連携促進ツールの開発に関する研究 3. 終末期ケアの質向上を目指したツール開発に関する研究 4. 看護学におけるデータベース構築・利活用に関する調査 5. 看護学生の認知症の理解促進を図るシミュレーション教育の効果に関する研究 6. 認知機能低下のあるストーマ保有高齢者のセルフケアに関する研究		
<b>キーワード：</b> 高齢者、生きがい、テクノロジー利用ニーズ、高齢者施設・住まい、認知症ケア		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 高齢者の生きがいのある生活のためのテクノロジー利用ニーズに関する研究 地域在住高齢者の生きがいのある生活のためのテクノロジー利用ニーズを明らかにすることを目的に質的研究を行っている。2023年度は、半構造化面接データの質的内容分析を実施し、投稿準備を行った。 2. 高齢者施設における看護職と介護職連携促進ツールの開発に関する研究 研究分担者として、高齢者施設・住まいからの避けられる救急搬送・入院を削減するためのツール開発を行っている。2023年度は、入居者の体調不良が生じたときの介護職と看護職の連携を促進するツールの初期版を作成し、有用性や実行可能性、効果を検証するための認知インタビューの研究プロトコルを作成した。 3. 終末期ケアの質向上を目指したツール開発に関する研究 研究分担者として、エンドオブライフ期に本人の意思を尊重したよりよいケアを提供するためのアセスメントツールのアプリケーション化を行っている。今年度は、昨年度開発したプロトタイプの修正を行った。研究班による検討に加え、アセスメントツールを紙媒体で運用している高齢者施設へのヒアリングを行い、アセスメントツールの具体的な運用方法を参考にして、要改善点を反映した修正版を作成した。 4. 看護学におけるデータベース構築・利活用に関する調査 プロジェクトメンバーとして、日本看護系協議会会員学会を対象とする看護学におけるデータベース構築やデータベース利活用を促進するための調査票の開発を行った。 5. 看護学生の認知症の理解促進を図るシミュレーション教育の効果に関する研究 認知症教育の効果をVRにて評価した研究に関する成果を学会で発表した。 6. 認知機能低下のあるストーマ保有高齢者のセルフケアに関する研究 研究分担者として、認知機能低下の自覚がありストーマを保有する高齢者のセルフケアの経験とその関連要因に関する質的内容分析を行った。		

**研究成果・業績（論文・発表等）：**

**【論文】**

・ Tsuji M, Fukahori H, Sugiyama D, Doorenbos A, Nasu K, Mashida Y, Ogawara H. Factors related to liability for damages for adverse events occurring in long-term care facilities. PLoS One. 2023 May 19;18(5):e0283332. doi: 10.1371/journal.pone.0283332.

**【学会発表】**

・ 真志田祐理子, 深堀浩樹, 鈴木はるの, 高岡茉奈美, 松本博成, 目麻里子, 山本則子, 五十嵐歩 (2023). 「Virtual Reality教材とカードゲームを用いた認知症教育が看護学生の態度に及ぼす効果」第33回日本老年学会総会/日本老年看護学会第28回学術集会.

・ Ogawara H, Fukahori H, Mashida Y, Matsumoto S, Nasu K (2023). Nursing Practice for Detecting Changes in Residents' Conditions in Long-term Care Facilities. IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023.

・ 宮川祥子, 赤塚永貴, 池下貴子, 石川志麻, 加藤由希子, 田口敦子, 辻恵子, 土江田奈留美, 永田智子, 平野優子, 深堀浩樹, 細坂泰子, 真志田祐理子, 山本なつ紀, 武田祐子 (2023). 「慶應義塾大学看護医療学部での看護教育DXの取り組み」第11回看護理工学会学術集会.

**【交流集会】**

・ 五十嵐歩, 松本博成, 高岡茉奈美, 鈴木はるの, 呉金艶, 深堀浩樹, 目麻里子, 久貝波留菜, 真志田祐理子, 山本則子 (2023). 「Dementia Friendly Communityの実現を目指した認知症啓発ツール開発と社会実装」日本老年看護学会第28回学術集会.

**【書籍】**

・ 水谷信子, 水野敏子, 高山成子 監修, 三重野英子, 會田信子, 深堀浩樹 編集. 第1章D分担執筆: 真志田祐理子, 深堀浩樹最新老年看護学 第4版, 2023年版. 日本看護協会出版会.

**【受賞】**

・ 第33回 日本老年学会総会合同ポスター (老年看護学会部門) 優秀演題賞

・ 第11回看護理工学会学術集会 研究奨励賞

・ 一般社団法人日本私立看護系大学協会 2023年度看護学研究奨励賞

分野：基礎看護学	職位：専任講師	氏名：松寄 愛
<b>研究テーマ：</b> 1. 手術室入室から全身麻酔導入までの患者と看護師の相互作用 —看護師の働きかけと患者の反応に焦点をあてて— 2. 生活援助技術教育におけるアクティブラーニングの活用について		
<b>キーワード：</b> 手術看護、相互作用、テーマ分析、生活援助技術、アクティブラーニング		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 手術室における外回り看護師の実践について、2018年11月～2019年3月に観察法とインタビュー法を用いてデータを収集した。そのデータをテーマ分析法で分析中。次年度、論文化する予定である。 2. 看護における「わざ」とは何か等について、教員間で抄読会やディスカッションを実施した。議論を通して教員としての自己の実践を振り返り、看護観や教育観を再考する機会となった。次年度からは、初学者に対する技術教育に焦点を当て研究に取り組みたいと考えている。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> ・松寄愛. (2023): 事例5 関節リウマチ(第4章). 山本佳代子監修, 成人看護学実習ワークブック-15 疾患の事例で「調べる、みる、考える」がわかる! 所収. メディカ出版, pp. 146-151. ・松寄愛. 「あなたのもやもや言葉にしませんか? 事例を通して学ぶ看護倫理と倫理分析」. 埼玉手術室情報交換会, 2024年1月. ・松寄愛. 「人材育成におけるコーチングについて」. 医療法人社団清心会, 人材創造プロジェクト, 2024年2月.		

分野：慢性期・終末期看護学	職位：教授	氏名：矢ヶ崎 香
<b>研究テーマ：</b> 1. がん薬物療法を受ける高齢者のフレイル予防：縦断研究によるケアモデル開発 2. がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン開発 3. 地域在住高齢者の歩行動作と転倒リスク要因解明 4. 天疱瘡・類天疱瘡の患者に関する質的研究		
<b>キーワード：</b> がん薬物療法 がん患者 QOL 食生活 身体活動 フレイル		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 1. 「がん薬物療法を受ける高齢者のフレイル予防：縦断研究によるケアモデル開（基盤研究B）」として、高齢がん患者を対象に縦断調査を実施した。今後は論文化を進める。 2. 日本がん看護学会、日本臨床腫瘍学会、日本臨床腫瘍薬学会によりがん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン出版後、国際誌への論文化を進めた（査読中）。 3. 「地域在住高齢者の日常生活動作の非接触動作解析と転倒リスク要因の解明（縦断研究）」のプロジェクトは終了した。（査読中） 4. 天疱瘡・類天疱瘡の患者に関する質的研究は論文化を進め、投稿準備が整った（2024年5月投稿）。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> （学術論文） 1. 田邊沙央里，小松浩子，矢ヶ崎香．化学療法による認知機能障害の有病率とQOLへの影響に関するシステマティックレビュー．日本がん看護学会誌．37．121-131．2023 2. 本田晶子，矢ヶ崎香．経口がん薬物療法を受ける高齢がん患者の服薬自己管理に対する訪問看護師のケア：質的研究．日本がん看護学会誌．37．e104-111．2023． （学会発表） 船戸真衣，川田一郎，矢ヶ崎香．がん薬物療法を受ける進行肺がん高齢者の症状クラスターとQuality of Life 縦断観察研究．日本がん看護学会学術集会37回．P.95．2023．		

分野：在宅看護学	職位：助教	氏名：山本 なつ紀
<b>研究テーマ：</b> ①訪問看護ステーションでの患者安全関連情報のオンライン共有システム開発について ②団地居住者の社会的フレイルの現状と関連要因について		
<b>キーワード：</b> 在宅看護、コミュニティケア、患者安全、社会的フレイル		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> ①訪問看護ステーションでの患者安全関連情報のオンライン共有システムについて、試作版を開発し、試運転を行った。 ②藤沢市B地区にある団地住民を対象に、生活状況と社会的フレイルに関する横断調査を行った。		
<b>研究成果・業績（論文・発表等）：</b> <b>【論文・総説】</b> ①Honda, C., & Yamamoto-Takiguchi, N. (2024). Association between obtaining injury prevention information and maternal and child health services during COVID-19. BMC health services research, 24(1), 275. ②山本なつ紀. (2023). 訪問看護でのケアの安全に関する経験知共有システムの構築に向けて. 地域ケアリング/地域ケアリング企画編集委員会 編, 25(6), 62-65. <b>【学会発表】</b> ①コロナ禍での「地域の縁側」の役割への認識と活動継続への取り組み：質的記述的研究. 内山映子, 山本なつ紀, 永田智子. (第 82 回日本公衆衛生学会総会 2023 年 10 月 31 日) ②コロナ禍前と現在の地域住民の生活や社会参加状況の変化：65 歳以上群と 65 歳未満群の比較. 山本なつ紀, 内山映子, 永田智子. (日本地域看護学会第 26 回学術集会 2023 年 9 月 2日) <b>【研究助成金】</b> 2023 年度 塾内学事振興資金：都市部団地高齢者の社会的フレイルの実態把握と地域活動への参加ニーズに関する調査		

分野：	職位：教授	氏名：新井 康通
<b>研究テーマ：</b> 1. 健康寿命の延伸につながる生活習慣・社会環境因子の同定：川崎市元気高齢者コホート研究 2. 百寿者、スーパーセンテナリアンの生体試料を活用した健康長寿バイオマーカー開発		
<b>キーワード：</b> 健康長寿 医科・介護レセプト 食習慣 バイオマーカー		
<b>今年度の研究活動の概要：</b> 急速に進展する世界的な高齢化を背景として認知症、フレイルなどの加齢関連疾患とそれによる医療・介護負担が急増している。持続可能な健康長寿社会の実現には、高齢者の多様性を考慮した栄養介入による健康増進/介護予防法の開発が急務である。研究課題1では、慶應義塾大学と川崎市の共同研究である Kawasaki Aging & Wellbeing Project (KAWP)コホートの基礎調査から3年後の医療・介護保険データを取得し、同時に会場調査による追跡調査を実施し、1) 新規要介護申請、2) 総死亡をアウトカムとして、食生活や運動習慣、地域参加、社会ネットワークとの関連を前向きに検証する。研究課題2では、慶應義塾大学医学部百寿総合研究センターが運営する世界最大級の百寿者調査を通じて蓄積された研究バイオリソースを活用して、マルチオミックス解析、シングルセル解析などの最先端の研究手法を駆使し、認知症やフレイルをはじめとした加齢関連疾患に対する抵抗性のメカニズムを解明し、新たな治療・介入戦略につながるバイオマーカー開発を目指す。		

**研究成果・業績（論文・発表等）：発表論文**

1. Sasaki T, Nishimoto Y, Hirata T, Abe Y, Hirose N, Takayama M, Takebayashi T, Okano H, Arai Y. Status and physiological significance of circulating adiponectin in the very old and centenarians: an observational study. *Elife* 12:e86309 (2023)
2. Shikimoto R, Sasaki T, Abe Y, Nishimoto Y, Hirata T, Mimura M, Arai Y. Depressive symptoms and carotid arteriosclerosis in very old people aged 85 years and older: A cross-sectional study by the Kawasaki Aging and Wellbeing Project. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2024 Mar;78(3):209-211.
3. Kurata H, Meguro S, Abe Y, Sasaki T, Asakura K, Arai Y, Itoh H. Dietary protein intake and all-cause mortality: results from The Kawasaki Aging and Wellbeing Project. *BMC Geriatr*. 2023 Aug 9;23(1):479. doi: 10.1186/s12877-023-04173-w. PMID: 37558986
4. Osawa Y, Candia J, Abe Y, Tajima T, Oguma Y, Arai Y. Plasma amino acid signature for sarcopenic phenotypes in community-dwelling octogenarians: Results from the Kawasaki Aging Wellbeing Project. *Exp Gerontol*. 2023 Jul;178:112230. doi: 10.1016/j.exger.2023.112230. Epub 2023 Jun 6. PMID: 37286061.

分野：健康科学・病態学	職位：教授	氏名：杉山 大典
<p><b>研究テーマ：予防に関する疫学研究（主に生活習慣病）</b></p> <p>1) 生活習慣病対策のための住環境整備に関する研究</p> <p>2) 健康保険組合員を対象とした禁煙キャンペーン事業の長期効果に関する研究</p> <p>上記2つに加えて、直接関与しているコホート研究（神戸研究、鶴岡研究）にて関連するテーマの研究や保護観察中の薬物犯罪者を対象にした地域コホート調査に関する研究など、「予防」をキーワードにした研究に参画している。</p> <p>併せて、データベース研究促進のための3学会合同プロジェクトに参画している。</p>		
<p><b>キーワード：予防医学、疫学、公衆衛生学、生活習慣病、健診・検診</b></p>		
<p><b>今年度の研究活動の概要：</b></p> <p>1) 生活習慣病対策のための住環境整備に関する研究</p> <p>適切な室温に関する意識の調査として、都市住民を対象とした地域コホート研究（神戸研究）の参加者 527 名に対して、冬場の寝室の室温についての質問及び WHO の住環境に関するガイドライン（WHO Housing and health guidelines, 2018）で推奨している冬場の室温が 18°Cであることを知っているかどうかに関する質問を行った。結果、冬場の室温が適温との回答が 56%、また WHO の冬場の推奨室温を知らないとの回答が 25%と適切な室温に関する啓蒙が必要であることを示唆する結果となった。今後は他の問診項目や臨床検査値との関連についての詳細な検討を行い、どのような層に対して働きかければより効果的に WHO の recommendation の認知度向上に繋がるのかを検討する予定である。</p> <p>2) 健康保険組合員を対象とした禁煙キャンペーン事業の長期効果に関する研究</p> <p>2023 年度に看護医療学部研究倫理審査委員会の認可を得て、東京貨物運送健康保険組合事業評価・分析委員会の事業評価の一環として 2019-2020 年度に実施した禁煙プログラム対象者のデータの効果に関する分析に着手している。2023 年度は主にデータのクリーニングを行った。</p> <p>また、データベース研究推進のためのレポジトリ構築を目指した ODR(open data repository)の周知および利用促進を目的の一つとしたシンポジウムを企画・開催した。</p> <p>&lt;2024 疫学会プレセミナーWeb サイト&gt;  <a href="https://jeaweb.jp/activities/seminars/individual.html?entry_id=1880">https://jeaweb.jp/activities/seminars/individual.html?entry_id=1880</a></p> <p>&lt;ODR Web サイト&gt;  <a href="https://odr-jp.net/accounts/login/?next=/">https://odr-jp.net/accounts/login/?next=/</a></p> <p>* 日本薬剤疫学会、日本疫学会、日本臨床疫学会いずれかの学会員が申請して利用可能。</p>		

**研究成果・業績（論文・発表等）：**

- 1: Tsutsumi S, Takano A, Usami T, Kumakura Y, Kanazawa Y, Takebayashi T, Sugiyama D, Matsumoto T. Risk and protective factors for early dropout from telephone monitoring for individuals with drug convictions in community mental health centers in Japan. *J Subst Use Addict Treat.* 2024 Mar 15;162:209347. doi:10.1016/j.josat.2024.209347. Epub ahead of print. PMID: 38494050.
- 2: Miyake A, Harada S, Sugiyama D, Matsumoto M, Hirata A, Miyagawa N, Toki R, Edagawa S, Kuwabara K, Okamura T, Sato A, Amano K, Hirayama A, Sugimoto M, Soga T, Tomita M, Arakawa K, Takebayashi T, Iida M. Reliability of Time-Series Plasma Metabolome Data over 6 Years in a Large-Scale Cohort Study. *Metabolites.* 2024 Jan 22;14(1):77. doi: 10.3390/metabol14010077. PMID: 38276312; PMCID:PMC10819202.
- 3: Sato K, Ishigaki D, Iwabu S, Okazaki M, Koh S, Soejima O, Funakoshi T, Moriya K, Suzuki T, Ozasa Y, Sugiyama D; Functional Evaluation Committee of the Japan Elbow Society. Japanese version of the Patient-rated elbow evaluation score correlates with physician-rated Japanese orthopaedic association-Japan elbow society elbow function score. *J Orthop Sci.* 2023 May 10;S0949-2658(23)00098-2. doi: 10.1016/j.jos.2023.04.006. Epub ahead of print. PMID: 37173218.
- 4: Harada-Shiba M, Ohtake A, Sugiyama D, Tada H, Dobashi K, Matsuki K, Minamino T, Yamashita S, Yamamoto Y. Guidelines for the Diagnosis and Treatment of Pediatric Familial Hypercholesterolemia 2022. *J Atheroscler Thromb.* 2023 May 1;30(5):531-557. doi: 10.5551/jat.CR006. PMID: 36682777; PMCID: PMC10164603.
- 5: Harada-Shiba M, Arai H, Ohmura H, Okazaki H, Sugiyama D, Tada H, Dobashi K, Matsuki K, Minamino T, Yamashita S, Yokote K. Guidelines for the Diagnosis and Treatment of Adult Familial Hypercholesterolemia 2022. *J Atheroscler Thromb.* 2023 May 1;30(5):558-586. doi: 10.5551/jat.CR005. PMID:36682773; PMCID: PMC10164595.
- 6: Wu D, Hirata A, Hirata T, Imai Y, Kuwabara K, Funamoto M, Sugiyama D, Okamura T. Fatty liver index predicts the development of hypertension in a Japanese general population with and without dysglycemia. *Hypertens Res.* 2023 Apr;46(4):879-886. doi: 10.1038/s41440-022-01161-2. Epub 2023 Jan 11. PMID: 36631554.

分野：健康科学・病態学	職位：教授	氏名：堀口 崇
<p><b>研究テーマ：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全・確実な手術手技の開発</li> <li>2. 手術教育に有用な解剖学習の研究</li> <li>3. 脳卒中の外科治療</li> <li>4. 脳卒中の病態・予防・治療</li> <li>5. 各種脳疾患における脳循環代謝の研究</li> <li>6. 臨床解剖学</li> <li>7. 臨床解剖学と看護医療の融合</li> <li>8. 急性期病態学と看護医療の融合</li> </ol>		
<p><b>キーワード：</b></p> <p>急性期病態学、臨床解剖、看護医療、脳卒中、脳神経外科</p>		
<p><b>今年度の研究活動の概要：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳神経外科学教室と共同で、高難度脳血管障害および頭蓋底外科疾患に対する血管内治療、術中血管撮影、神経内視鏡・外視鏡・顕微鏡、術中ナビゲーション・モニタリング、などを併用した安全・確実な手術手技の開発を目指す。</li> <li>2. 脳神経外科学教室及び解剖学教室と共同で、献体を用いた実践的解剖画像データを3D変換し、手術手技習得に有用な外科解剖を立体的映像で学習できる教材を開発する。</li> <li>3. 4. 5. 脳神経外科学教室と共同で、臨床研究を継続する。</li> <li>6. 解剖学教室と共同で、新たな治療法の開発や、画像診断および診療に還元可能な解剖学的知識を集積する目的で、献体を用いた解剖を行う。また、より実際の手術と近い環境を再現可能な、新規献体固定方法の開発および有用性の研究を行う。</li> <li>7. 最新の臨床解剖学を学び、修得した知識を3D立体モデルなどの自主作成を通じて可視化することで、適切な看護計画立案とケアの実践に活用できる可能性を探る。</li> <li>8. 最新の急性期病態学を学び、修得した知識を具体的な患者の症状や徴候として言語化することで、適切な看護計画立案とケアの実践に活用できる可能性を探る。</li> </ol>		

研究成果・業績（論文・発表等）：

論文

1. A simple combined approach using anterior transpetrosal and retrosigmoid approach: A case report. R. Tamura, R. Ueda, K. Karatsu, T. Sayanagi, K. Takahara, U. Hino, T. Iwama I, H. Nogawa, M. Nakaya, T. Horiguchi, M. Toda, *Front. Surg.*, doi: 10.3389/fsurg.2023.1094387.
2. Anterior transpetrosal approach and the tumor removal rate, postoperative neurological changes, and complications: experience in 274 cases over 33 years. R. Tomio, T. Horiguchi, S. Shibao, R. Tamura, K. Yoshida, T. Kawase, *J Neurosurg.*, doi: 10.3171/2023.11.JNS231532.

発表

1. 小脳水平裂を利用したアプローチに影響する解剖学的構造に関する画像解析。曾賀野純希、田村亮太、水谷克洋、北村洋平、植田良、堀口崇、戸田正博。第35回日本頭蓋底外科学会，2023年7月6日，東京
2. 小脳 horizontal fissure を利用した小脳半球深部・小脳橋角部内側面・第四脳室上半部病変へのアプローチ。田村亮太、堀口崇、曾賀野純希、富岡あず菜、北村洋平、植田良、戸田正博。第35回日本頭蓋底外科学会，2023年7月7日，東京
3. 臨床学生版多職種連携コンピテンシー自己評価票の妥当性・信頼性の検証。春田淳志、富崎悦子、堀口崇、中村智徳、石川さと子、門川俊明。第55回医学教育学会，2023年7月29日，長崎
4. グループ学習の多職種連携コンピテンシー自己評価票の妥当性・信頼性の検証。春田淳志、富崎悦子、堀口崇、石川さと子、横田恵理子、門川俊明。第55回医学教育学会，2023年7月29日，長崎
5. 小脳 horizontal fissure を利用した後頭蓋窩腫瘍へのアプローチ。田村亮太、堀口崇、曾賀野純希、富岡あず菜、北村洋平、植田良、戸田正博。第28回日本脳腫瘍の外科学会，2023年9月30日，長崎
6. 小脳水平裂を利用したアプローチに影響する解剖学的構造に関する解析。曾賀野純希、田村亮太、水谷克洋、北村洋平、植田良、堀口崇、戸田正博。第11回手技にこだわる脳神経外科ビデオカンファレンス，2024年1月27日，東京
7. 臨床解剖を効率よく学習するための「3D 立体視」の取り組みと今後について。高詰佳史、今西 宣晶、堀口 崇。第129回日本解剖学会総会学術集会，2024年3月23日，沖縄

分野：	職位：教授	氏名：山内 慶太
<p><b>研究テーマ：</b>主に以下に大別されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)大規模レセプトデータを用いた高額医療費の分析</li> <li>2)電子カルテデータ等の病院マネジメント向上への活用</li> <li>3)健保組合のデータ(特定健診、レセプト等)の健康経営への活用</li> <li>4)病院の組織管理に関する研究</li> <li>5)自殺対策</li> <li>6)公的統計マイクロデータの利活用に関する研究</li> <li>7)初等中等教育段階におけるデータサイエンス教育プログラムの開発</li> <li>8)慶應義塾史</li> </ol>		
<p><b>キーワード：</b>ヘルスサービスリサーチ、メンタルヘルス、探索的データ解析</p>		
<p><b>今年度の研究活動の概要：</b></p> <p>上記研究テーマの 1)～6)は私の研究グループで大学院の学生や修了者と共に行っているもので、そのうちの一部を以下に紹介する。</p> <p>1～3)については、協会けんぽ(全国健康保険協会)の委託研究、土木健保との共同研究、JMDC から提供を受けたレセプトデータを用いた研究等を進めている。そのうち協会けんぽの委託研究は、加入者約 4 千万人の匿名化データの分析環境が提供される委託研究事業で、その中から高額医療費の 169 万人のデータを用いてマルチモビディティのパターンを明らかにした。なお、本研究は、協会けんぽが広くはじめた委託研究事業としては最初の報告となった。</p> <p>5～6)については、統計数理研究所、総務省統計データ利活用センター等とも連携した革新的自殺研究推進プログラム「ポストコロナの自殺対策に資する統計等のマイクロデータ利活用推進に関する研究」に引き続き参画した。本研究の実績を基に 2022 年度末に看護医療学部校舎にオンサイト拠点が設置されたが、今年度は、オンサイト拠点を活用しての分析も進めた。なお、8 月には、総務省が和歌山に「統計データ利活用センター」を開設して統計マイクロデータの提供を開始して 5 周年になることを記念した「2023 データ利活用シンポジウム in 高野山」に招かれ、今までの分析事例等を交えてデータ利活用に求められる姿勢と初等中等教育段階での統計教育の課題について提言した。</p> <p>8)については、本塾福澤研究センター准教授の都倉武之君と共同で制作協力していた、オンライン講座 FutureLearn『日本の近代化:福澤諭吉の格闘』が完成し 10 月末に公開された。また、2024 年 4 月の公開に向けて英語版の作成も進めた。</p> <p>8)に関する地域貢献としては、中津市と慶應義塾で進めているプロジェクトに参画し、福澤先生が過ごした時代の中津の古地図で町歩きを愉しむ為の「中津城下まち歩きマップ」とオンライン版「中津城下再生古地図」の制作に協力した。これも、長年頻繁に行ってきた中津での調査、塾内小学生から大学生等の引率経験等を活かしたものである。</p>		

**研究成果・業績（論文・発表等）：**

（論文）

Nishida Y, Anzai T, Takahashi K, Kozuma T, Kanda E, Yamauchi K, Katsukawa F, Multimorbidity patterns in the working age population with the top 10% medical cost from exhaustive insurance claims data of Japan Health Insurance Association, PLoS ONE, 18(9) , 2023.

Nishida Y, Yamada Y, Sasaki S, Kanda E, Kanno Y, Anzai T, Takahashi K, Yamauchi K, Katsukawa F, Effect of overweight/obesity and metabolic syndrome on frailty in middle-aged and older Japanese adults, Obesity Science and Practice 10 (1), 1-13, 2024.

新井崇弘, 山内慶太, 椿広計, 渡辺美智子, 潜在クラス分析を用いた社会生活基本調査ミクロデータにおける介護負担と睡眠時間に関する検討, 統計研究彙報(81) 1-12, 2024.

（その他）

山内慶太, 福澤諭吉をめぐる人々(その 80) 長与専斎, 三田評論(1279), 44-47, 2023.

山内慶太, 福澤諭吉をめぐる人々(その 84) 島津祐太郎, 三田評論(1283), 52-55, 2023.

那須規子, 斎藤慶典, 牛場潤一, 河野文彦, 山内慶太, (特集一貫教育確立 125 年) 座談会: 「同一の中の多様」が育む豊かな教育とは, 三田評論(1281), 10-27, 2023

（書籍）

山内慶太, 西川俊作編 『福澤諭吉教育論－独立して孤立せず』（慶應義塾大学出版会）, 2024.

文藝春秋編, 文春新書『美しい日本人』（文藝春秋）, 2023. （山内慶太「小泉信三 ハンセン病患者へ野球の贈り物」を収載）

（シンポジウム）

椿広計, 工藤卓哉, 山内慶太, 浜口知実, パネルディスカッション、－地方創生－データサイエンスのすすめ, 2023 データ利活用シンポジウム in 高野山, 2023.

（オンライン講座）

山内慶太, 都倉武之 『日本の近代化: 福澤諭吉の格闘』（オンライン講座 FutureLearn）, 2023

山内慶太 「KEIO スポーツの特質－エンジョイ・ベースボールを通して」（第 5 回慶應連合三田会学びのウェブセミナー）, 2023

## 看護医療学部 研究年報 2023

発行年月 2024年5月16日 第1版  
2024年7月4日 第2版

作成者 慶應義塾大学看護医療学部 研究推進委員会  
深堀浩樹（委員長） 細坂泰子（副委員長）  
矢ヶ崎香 小池智子 田村紀子 山本なつ紀